

劇団 fool

「幻
MABOROSHI」

脚本 溝口 優

第0章 「あの日の幻日」

☆ 《暗転中》子供の声が響く(袖声)。

ゼロ 「割とろくでもない人生だった」

姉 「ゼロ？ゼロ！！(袖声)」

ゼロ 「あー…そうね…私の人生から話さない」と

☆ 【SE・扉が開く音】舞踏会が開かれている。

《明転》華やかに登場人物が目元を隠して出てくる。

姉 「ゼロ！何処に行ってたの？」

ゼロ 「ごめんなさい。お姉ちゃん」

姉 「心配させないで…ほら。これ。パパと…私からプレゼント」

☆ ネットクレスを貰う。

ゼロ 「ありがとう…ごめん」

姉 「うん…いいのよ。でも、ママが居なくなって悲しいのは貴方だけ

ゼロ 「じゃない。いい？」

姉 「うん」

☆ おでこにキスする。ゼロの一人語り。

ゼロ 「はあ…つまんない。何にもない…。嫌いな匂いに」

☆ 笑い声が響く。

ゼロ 「嫌いな声、嫌いな景色…でも好きな物はあった…素敵な本」

☆ 本を開く。

ゼロ 「ママが描いた絵本。名も無き者の理想の世界【ファンタジー】」

☆ 笑い声が強くなる。

ゼロ 「良い人が嫌いだった。ここじゃない…幻の世界…この子達…名前が無いなんて可哀相…。いつ帰って来るの？ママ。迎えに来るって言ったじゃん…嫌い…。大人は約束を守らない…。そうだ…こんな本…描き換えてしまえばいい…あはは…大人になりたい…ないよ…何もかも壊して！めちゃくちゃにして！私の心みたいに壊れた世界で…いつか迎えに来て…私を守ってね…悪い人」

☆ 絵本を描き変えるゼロ。

ゼロ

「現実を幻日に：約束を守る人：いつか私を助けに来て……。一人じゃ寂しいかな……。もう一人加えちゃえ」

姉
ゼロ

「ゼロ？……どうしたの？ゼロ？……またママの絵本見て……何してるの？」「何でもない……！ねえ、パパはまた私の誕生日に居ないの？約束したのに」

姉

「パパは……忙しいのよ。分かるでしょ？」

ゼロ

「毎年毎年……約束を破る……お姉ちゃんの時居るのに……なんで……！」

姉

「それは……その……」

ゼロ

「あ！ごめん……ちよつと気分が悪くて……おかしくなったみたい……外の空気を吸ってくる」

姉

「あ……うん、いいけど……。でも【魔女の森】には行っちゃダメよ？ママがよく言ってたでしょ？」

ゼロ

「ママは何処へ行ったの？有名な作家さんなんでしょ？なんで見つからないの？」

姉

「それは……分からない……」

ゼロ

「……ごめん、行かない。大丈夫、気分が良くなったら戻るから……」

姉

「ついて行こうか？」

ゼロ

「本当に大丈夫！ごめんね、お姉ちゃん……うん。心配かけてごめんなさい。でも、大丈夫だから！」

☆ 【映像・豪華絢爛】。舞踏会からゆっくり離れる皆。去って行く。

ゼロ

「ああ。この時？？勿論大嫌い。お姉ちゃんは好きよ。私と違って綺麗だし……頭もいいし……。何でも……出来ちゃう……。私はこの家庭のただの……お飾り、出来損ない……。パパは私を愛していない。お姉ちゃんしか見ていない……嫌いなんだ……きつと……。出来の悪い私をパパは役立たずだと思ってる……誰も愛してくれないなら……逃げよう。ここから」

姉

「ゼロ？ゼロ？（袖声）」

姉

「逃げてしまえばいい」

父

「ゼロ！ゼロ！どこ！？（袖声）」

姉

「何をやっているんだ！（袖声）」

姉

「ごめんなさい……気分が悪いって……！でも……パパだって……！（袖声）」

☆ 声が遠くなっていく。

ゼロ

「嫌い嫌い……！！何もかも……私を見てくれる所……どこ？ママは見てくれた……ママに会いたい……。でも……どれだけ待っても……迎えに来てくれな……い……どうすれば……」

☆ 声にならない声が聞こえる。（騒めき）

ゼロ

「え？誰？」

☆ 木々が揺れる。

ゼロ 「魔法の森…？」

☆ こつちへおいでと囁く。

ゼロ 「魔法の森。この先には悪い魔法がいて…何でも望みを叶えてくれる。その代わりに大事な物を一つ奪うんだって…そんなの信じられる？この時はまだ…そう思っていた」

☆ 【映像・夜の森】

ワイルド 「おや？こんな時間にどうしたんだい？ゼロ」

ゼロ 「あ…えっと…嫌に…なまってしまつて…？ん？私の名前を知っているの？パパとお姉ちゃんの知り合い？」

ワイルド 「いや？でも…嫌になったのなら、この木に触るといい。そこには君の求める世界がある」

☆ 【SE】怪しい風の音が鳴る。

ワイルド 「どうした？ほら？触るだけさ…おいで？」

☆ 触れそうになる。

ゼロ 「ダメよ！ここには魔法が…」

ワイルド 「キミの願い…一つ叶えてやろう。その代わりに」

☆ ゼロの頭を指さす。

ワイルド 「この物語から出る時…大切な物を貰う」

ゼロ 「大切な物？」

ワイルド 「そう…。君の大切な…【幻】の記憶を」

ゼロ 「幻の記憶？…分かった。ここにいても…」

☆ 遠くから自宅を見つめる。(笑い声が聞こえる)

ゼロ 「何も無いから」

ワイルド 「ひひひ…契約成立だ。さあ…！さあ！」

☆ ゼロが木に触れる。光が溢れる。

ワイルド 「ようこそ」

ゼロ 「え…」

☆ 【映像・華やかなファンタジー】

ワイルド 「ファンタジーの世界へ」

第1章 「ワイルド」

ゼロ 「わあ…ママの世界みたい…あはは!!」

ワイルド 「戻る時でいいよ…約束は守ってもらおうよ？」

ゼロ 「分かった!…えっと」

ワイルド 「ん？」

ゼロ 「貴方の名前は？」

ワイルド 「名前?聞いてどうするんだい？」

ゼロ 「えっと…何と言うか貴方、見た目がとてもワイルドだし…私を救ってくれたし」

ワイルド 「救う?変な子だねえ」

ゼロ 「そうかな?私の居る世界の方が…よっぽど変だと思うけど…。で??

ワイルド 「お名前は？」

ゼロ 「無いよ」

ワイルド 「すごい!完璧に絵本の世界!分かった!じゃあ…貴方は…ワイルド。よろしく」

ワイルド 「よろしく…」

☆ ゼロと握手する。歩き出すゼロ。

ゼロ 「一緒に来てくれないの?こういうのって案内してくれない?普通」

ワイルド 「あ…それはねえ…私はこの木の周りにしか居られないのさ…それが

ゼロ 【契約】だから」

ゼロ 「どういう事」

☆ 【SE】手を伸ばすと焼ける音がする。

ワイルド 「こういう事さ」

ゼロ 「大丈夫!？」

ワイルド 「これがこの世界の約束」

ゼロ 「可哀相…閉じ込められて」

ワイルド 「は？」

ゼロ 「なんだか私みたい…ここに連れて来てくれたお礼にあなたを自由に
してあげるね!」

ワイルド 「どうやって?」

ゼロ 「さあ?分からないけど…約束って破る者でしょ?大人って。パパも
…ママも」

ワイルド 「そうだね。それは楽しみだ…ひひ。ほら!行った行った!」

ゼロ 「分かった!行って来るね!凄い!まるで主人公みたい!ありがとう!」

☆ 去って行くゼロ。スートの声がする。(袖声)

スート 「あれ?どうしたのかニヤ？」

ワイルド 「何でもないよ、あっちへお行き」

スート 「私はここにいるのに？」

☆ 姿を現すスート。動じないで頭を撫でるワイルド。

ワイルド 「…全く。今度はノミかい？変装が好きだねえ」

スート 「ニヤハハハ！」

ワイルド 「頼んだよ」

スート 「分かったニヤ」

☆ スートが去る。火傷した自分の手を見つめるワイルド。出てくるゼロ。見送るように消えていくワイルド。【映像・森】

ゼロ 「凄い…なんだか自分じゃないみたい…あ…綺麗な水…」

☆ 水に映る自分の顔。【SE・ぴちよーん】

ゼロ 「私…私だよ？本当にすごい！！」

☆ ゼロが遊んでいるとテトラとぶつかる。

ゼロ 「あ！ごめんなさい！私…」

テトラ 「…お前」

ゼロ 「え？…パパ？なんでこんな…ところに？」

テトラ 「おい！見つけたぞ！この魔女め」

ゼロ 「パパ？ちよつと？きやー！！！！」

☆ 【映像】&ナレーション。

冒険譚 「冒険譚その1。ゼロ、森で村人に捕まる」

第2章 「冒険」

☆ 賑やかな店内（全キャスト）。

ゼロ 「パパ！どうしたの？連れ戻すならもっと遊ばせてくれてもいいじゃ

ん！いつつもそう！今日も約束を守らなかつたくせに！」

テトラ 「パパ？…お前は誰と勘違いしているんだ」

ゼロ 「え？」

テトラ 「お…来た来た」

☆ ジダイがやって来る。

ゼロ 「お姉ちゃん！？」

テトラ 「ん！？お姉ちゃん！？」

ゼロ 「パパ！ふざけないで！」

テトラ 「どういう事だ？」
ゼロ 「ふざけないで！パパはテトラ！お姉ちゃんはジデイでしょ!？」
テトラ 「テトラ：名前？」
ジデイ 「：お姉ちゃん？ジデイ？馬鹿な事を言うんじゃないよ：何言ってるの？私はこの街の長よ」
テトラ 「名前を付ける：きつとこの子が魔女だよ：！！」
ジデイ 「うるさい。確かに変だ：あの森に居たんだろう？ああ：怖い」
ゼロ 「え？何言ってるの？」
ジデイ 「テトラが魔女を捕まえた！今日は宴だよ！」
全員 「おおおお！！！！処刑しろ！！悪魔の手先め！！」
テトラ 「名前：名前だあ！」
ジデイ 「：行くよ」

☆ 閉じ込められる、ゼロ。

ゼロ 「え：お姉ちゃん！？パパ！ちよつと！！！！何：何の遊び：んーもう！！誕生日のサプライズなら：もつと：」

☆ 【映像】&ナレーション。

冒険譚 「冒険譚その2。ゼロ、脱出する」

☆ 膝を抱えているゼロ。

スート 「ニヤハハハ」
ゼロ 「なに？」
スート 「じゃじゃーん」

☆ 急に現れるスート。

ゼロ 「誰！？え？ネコ？」
スート 「はい、これ」
ゼロ 「これは何？」

☆ 鍵を手に入れる。声がする(袖声。『なんでこんな見張りなんか：』など)。

スート 「早く開けるニヤ」

☆ 鍵を開けるゼロ。

ゼロ 「：開いた！」

☆ 【SE】鉄格子が開く音。声が近づく。

スート 「逃げるのニヤ」

☆ 去る二人。やって来るテトラ。空っぽの牢屋。

テトラ 「嘘だろ？」

☆ 【SE・警笛】走っている、スートとゼロ。

ゼロ 「待って！息が」

☆ 倒れこむ、ゼロ。

スート 「あーあ…体力無いニヤ…」

☆ やつて来るエースとリード、スラム。気を取り戻すゼロ。

スラム 「わ！わ！起きるよ！」

エース 「今日は良き日だ。新たな仲間が…」

リード 「良き日！？これが！？どこが！？やつつけようぜ！おら！おら！」

☆ ポコポコパンチするリード。

ゼロ 「え？なにになに！？」

リード 「よお！」

ゼロ 「きやああ！」

スラム 「うあああああ！！」

☆ 【映像】&ナレーション&。

冒険譚 「冒険譚その3。ゼロ。友達に出会い、名前を付ける」

第3章 「友達」

キティ 「間も無くです」

エース 「うん。ありがとう。改めて…今日は良き日だ」

☆ リードとスートとスラムが各々でバタバタしている。

ゼロ 「今度は何？」

エース 「ん？キミの占いによると仲間が来たのでは無いのか？」

キティ 「その筈ですが…」

スート 「何かニヤ？」

エース 「我々の説明は？」

スート 「してないニヤ」

エース 「…うん！いつもの事だ。さあ！食事の準備だぞ」

ゼロ 「こんにちは…ネコとサルとイヌさん」

エース 「準備をするんだ！な！早くしないとご飯抜きだぞ！」

ゼロ 「貴方は？」
エース 「ああ…私は」

☆ 優雅にエプロンをつける。

エース 「私かな？」

☆ ぱっぱと食事の準備をする。着席（テーブルは無し）。

エース 「では！我らの新しい友に！」

☆ 皆で食べ散らかしている。

キティ 「散らかすのも想定内です。なにより我々には要らない儀式だったよう
です」

ゼロ 「あなた達は？」

エース 「私達は私達としか？ほら！暴れるな！」

ゼロ 「名前ないの？」

全員 「名前！？」

ゼロ 「え…？ええ…名前…。え！？ないの！？」

エース 「名前だつて！！聞いたか！？つけてくれるのか！？」

☆ 大盛り上がりな皆。

ゼロ 「貴方は人の形をしているけど？え？無いの？」

エース 「そりゃあ、皆無いさ…なんだって、その我々は…だから…（こそつと）
これ言っているの？」

キティ 「大声でなければ」

ゼロ 「なに？」

エース 「だから…（ごによごによ）だから」

ゼロ 「ファンタジーの住人？」

☆ 森が騒めく。ゼロの口を塞ぐエース。静かになっていく。

エース 「分かるだろ…！？私達は人間じゃない…！！」

ゼロ 「それで名前無いの？意味分かんない」

エース 「しー！しー！だ！ここは君たちの世界じゃない！皆、名前が無い！」

ゼロ 「じゃあ、付けばいいじゃない」

エース 「自分達では…付けられないんだ！名前は大きな意味を持つ。外から来る君達じゃないと！勝手につけたら…！！」

☆ 森が騒めく。

エース 「排除されるんだ…！いいかい？」

ゼロ 「不思議な事言うのね。じゃあ！貴方はエース！それでいい？」

エース 「え？…エース！エース！実にいい名前だ」

ゼロ 「君は」
リード 「なんだ！？なんだ！」
ゼロ 「リード」
「強そうな名前じゃないかー！俺様にぴったりだ！」
ゼロ 「貴方はスラム！」
スラム 「すすすすスラムね！分かった！」
ゼロ 「で、占いをしている貴方はキティ！」
キティ 「おや。私にも…ありがとうございます」
ゼロ 「ネコちゃんは…スト！」
スト 「はいニヤー」
エース 「なんでそういう名前？」
ゼロ 「トランプが好きなの。ママが好きだったから」
エース 「ママ？」
ゼロ 「私はゼロ…覚えておいてね？よろしく！」

☆ 【映像】&ナレーション。ファンタジーの説明をされているゼロ。

冒険譚 「冒険譚その4。ゼロ、世界を知り、楽しい日々を過ごし。この世界を変える旅に出る」

第4章 「仲間」

ゼロ 「貴方達が苦しい思いをしているのは、その悪い王様の所為なのね。私の世界と一緒」
エース 「ああ…。でも…なんて悲しい別れだ」

☆ ゼロを抱き締める。

エース 「いいかい？格闘家、僧侶、剣士、魔法使いを仲間にするんだ。きつと君の助けになる。って…思う…そうだよな？」
キティ 「ええ、そうです」
エース 「です！」
ゼロ 「必ず帰って来るから。名前を付ければ皆…幸せになるって事なんでしょ？行って来る！私は皆と違って約束守るから！」
エース 「皆？」
リード 「約束だ！」
ゼロ 「うん。約束！」

☆ 一人一人と抱き合う。

ゼロ 「じゃー！」
エース 「君の冒険譚に幸あれ」

☆ 去って行くゼロ。ついて行くスラム。

エース 「君の占いは？」
キティ 「結果」
エース 「付けちやいけない名前がある…？なんで言わなかった！？」
キティ 「聞かれませんでしたので」
エース 「こうしちやいられない。私も急ごう」
キティ 「どこへ」
エース 「あの子の元へ！」

☆ 【歓声】街の中。格闘技場。暴れているクラブ。

クラブ 「おいおい！誰か居ねえのか！？俺に勝てる奴はよ！」

☆ 【映像】&ナレーション。

冒険譚 「冒険譚その5。ゼロ、仲間を引き入れる」
ゼロ 「なんでついて来たの？」
スラム 「ただただって…！本当にアレと戦うの？」
ゼロ 「ええ、勿論」
スラム 「無謀だよ！無茶だよ！」
ゼロ 「じゃ！そこで見てれば？…こんにちは」
クラブ 「あ？誰だあ？このチビを呼んだのは？」

☆ 笑い声が響く。

クラブ 「おチビちゃん…。あの子、ここは誰でも参加できる…がなんだ？
金か？？」
ゼロ 「そんな事無いわ。野蛮な人ね」

☆ 笑われる。

クラブ 「…試合開始しろ！！」

☆ 【SE】ゴングが鳴る。

クラブ 「さあ、やめるなら」
ゼロ 「友達に聞いたわ」
クラブ 「あ！？何を！？」
ゼロ 「貴方、落ちこぼれだって」

☆ 歓声が止まる。

ゼロ 「そんなデカイ身体で私を倒す？？それで楽しい？ばっかみたい！！
恥ずかしい、それで強いつもり？？…いいわよ。ほら！殴ってみな
さいよ！格闘家さん！！」
クラブ 「う…うおおお！！」

☆ 殴れない。

ゼロ 「優しい人ね…。こんな所で暴れるより…もっと楽しい事しない？？」

「もっとヒーローになれる事」

クラブ 「ヒーロー？」

ゼロ 「クラブ。貴方はクラブ。どう？ほら？皆の事を幸せにしましょ？」

クラブ 「名前…？…分かった！負けだよ…負け」

☆ 大歓声。闘技場から場所が変わる。

ゼロ 「やった！私の勝ち！」

スラム 「し、心臓止まるかと思った」

クラブ 「で？何の用だ…ちっちゃいお嬢さん」

ゼロ 「悪い奴やつつけない？」

☆ ウィンクする。

クラブ 「ああ…そりゃ…たまんねえな」

☆ 【映像】場所が変わる。

スピード 「ふうふう！！」

☆ 嘘くさい簡単な手品でスポットライトを浴びてアピールする。

スピード 「皆ー！私の信者になってねえ♡」

☆ 大歓声。

クラブ 「あれだ。あいつが僧侶」

ゼロ 「くっさい！なにー？」

クラブ 「これでも教会なんだと！」

ゼロ 「嘘でしょ…うるさい場所…」

スピード 「じゃあねー！」

☆ 閉店後。【SE・カランカラン】

スピード 「誰？今日は店仕舞い…え？」

クラブ 「よう」

スピード 「ああ…なるほど。噂で聞いたわ。何かこの世界の王を倒すとかいう奴？」

☆ めっちゃタバコ吸っている（無煙タバコ）。

スピード 「それが何の用？」

☆ ゼロが来る。

スラム 「ぜぜゼロに手を出したら許さないぞ！」

ゼロ 「ありがとう、スラム。ねえ、世界を変えてみない？名前をあげるわ！
ついて来て！」

スピード 「あははは！生意気！じゃあ、この手品…分かる？？分かったらついて
行ってあげる」

☆ 簡単なイカサマ手品。簡単に当てる。

ゼロ 「チープなイカサマ」

☆ ゲラゲラ笑うスピード。

ゼロ 「貴方は…そうねスピード。いい？」

スピード 「スピード？…いいね。乗った。ギャンブルは好きなんだ」
ゼロ 「確かこの後は…ん…」

☆ ゼロが誰かを探している。

ゼロ 「あ、いた」

スラム 「な、なんで君はそんなに勇敢なのさ！」

ゼロ 「好きな世界だから…あの世界よりマシよ」

スラム 「え？」

スピード 「お探しのものは」

☆ 袖から引つ張り出してくる。

スピード 「これでしょ？」

ダイヤ 「いた…あはは。やあ」

ゼロ 「ママの本の通り…貴方が弱気な剣士…そーね…。クラブ…スピードと
来たら…ダイヤ！」

ダイヤ 「ダ…ダイヤ？それ俺の名前？」

クラブ 「お前何してたんだよ…」

ダイヤ 「それは…ほら…あれだよ、僧侶って素敵だよね！ほら！」

☆ タバコを吸っている、スピード。(無煙タバコ)

ダイヤ 「ね！僧侶なのに！…え？なんか？俺…間違えた？」

ゼロ 「好きなのよね。はいはい…ふふ」

ダイヤ 「ち、違う！」

ゼロ 「次！」

☆ 【映像・教会】 大きな門を開ける。全員溜息をつく。

スペード 「ださ」
クラブ 「お前が言う？お前あっち側だぜ？本来はきつと」
ゼロ 「もう：ママの世界ってなんでこんなに墮落してるのかな…。それが楽しいんだけど」
スラム 「ななな何！？」
ゼロ 「なんでもなーい！魔法使いさんね？」
ハート 「迷える子羊…」
ゼロ 「そういうのいいから！私：信者でもないし。ごめんね」
スラム 「ただだ大丈夫かな？」
ハート 「何用ですか」
ゼロ 「ねえ：悪い奴をやつつけるってどう？」
ハート 「申し訳ございませんが、そんな事に興味は無いです。お帰り下さい」
ゼロ 「これ：ピザの匂いよね？後ろ向いてるけど…今何食べてる？」
ハート 「ななななな！何を！？」
ゼロ 「行きましょ！この世界が平和になれば…もっといいピザを食べられるかも？」
ハート 「のった」
ゼロ 「あはは！貴方はハート。いい？」

☆ 【映像】&ナレーション。出会う場所まで移動。

冒険譚 「冒険譚その6。ゼロ、初めての敵と出会う」

第5章 「敵」

キング 「近づいている者がいる？もう少しなのだ…もう少し…！この世界に崩壊を…名前など…！」
ディール達 「ははあ！」
キング 「邪魔はさせない誰にも…どうだ？」
ウイドー 「私達は負けることはありません。彼の占いには負ける事がないので」
キング 「そうだろう…！これさえおこせば…！この世界は我々の物だ！あははは…！」
ウイドー 「ふふ…そうですね…さあ…目覚めを…」

☆ 雷に照らされソロがうつる。笑い声が響く。
そのやり取りの中で出会うゼロ達。

ダイヤ 「言つたらろ！名前があつたつて俺達は役に立て…」
スラム 「そそそそうだよ！逃げよう！」
スペード 「こいや」
クラブ 「ぶっ飛ばしてやる」
ハート 「うちの信者になれ」
ゼロ 「あら…あなた達…」
デッキ 「あらとはなんだ！」
デッキ 「なんだとはなんだ！」

二人 「この！！」
デイル 「お黙り！」

☆ 鞭を叩く。【SE・雷（ドドン）】。

デイル 「みつともないよアンタ達！私達はあの人に仕えてるんだ！それを忘れるんじゃないよ！」

ゼロ 「好きよ！」

デイル達 「え？」

ゼロ 「昔から好きなの！ふふ…可愛いわよね！」

デイル達 「私(俺)？私(俺)か？」

ゼロ 「名前はデイルってどう？貴方はデッキで、貴方はデッキ！トランプが好きなの！」

デイル達 「は？」

ゼロ 「かっこいいわよ！そんな鞭で従えるとか！私、出来ないもん！嵐の女王！デイル！どう？」

☆ 晴れる。

デイル 「デイル…私の名前？」

デッキ 「デッキ…かっけー！」

デッキ 「ふ…受け入れよう」

デイル達 「いえーい！」

ゼロ 「で？どう？名前を付けるのが難しいなら、もうついたけど」

デイル 「き、今日の所はこれで勘弁してやる！」

デッキ 「でも…いいなあ、名前」

デッキ 「いいなあ、名前」

デッキ 「デッキの癖に」

デッキ 「デッキの癖に」

☆ 喧嘩している二人。

デイル 「デイル…ありがとうな…」

ゼロ 「どういたしました…。あと…お風呂入った方がいいわよ…あなた達…臭うもの」

☆ 去るゼロ。

デイル 「…臭う？」

二人 「さあ？」

☆ 急いで向かっているエース達。豪雨の中。
ちゃんと戦っているゼロ達(エア)。

ダイヤ・エース・クラブ・ハート 「行けえ！ゼロ！」

☆ 【映像】&ナレーション。雨の中の最終決戦。

冒険譚

「冒険譚その7。ゼロ最後の戦いの舞台へ」

第6章 「最終決戦」

ゼロ 「ねえ！」

キング 「なんだ」

ゼロ 「雨がヒドいんだけど！」

キング 「そうだな」

ゼロ 「え！？なんて！？」

キング 「そ！う！だ！な！」

ゼロ 「貴方！何がしたいのー！？」

キング 「この世界を」

ゼロ 「え！？」

キング 「この世界を！！変えたい！！」

ゼロ 「じゃあ！貴方は王様！キングね！！」

キング 「え！？」

ゼロ 「キング！！！！」

キング 「かっこよくない？」

ゼロ 「キング…私はキング…？私にまで名前を…占いは？」

キング 「占いは？」

☆ ウィドーが居ない。雨が止む。

ゼロ 「はあ…あと他には？」

☆ 沈黙。

ゼロ 「居ないわね！」

☆ 全員が居る。名前が付いた事に喜ぶ皆。去る。

ゼロ 「やった！ママの本の通り」

☆ ウィドーが出て来る。

ウィドー 「こっちへ…」

ゼロ 「？」

ウィドー 「こっちへ」

ゼロ 「なに？」

☆ ソロが出て来る。

ウイドー 「この子に名前を…」
ゼロ 「誰？…貴方…知らない…」
ウイドー 「知る必要なんて無い…この子にも名前を」
ゼロ 「…じゃあ」

☆ やって来るエース。

エース 「そいつはダメだ！止める！」
ゼロ 「貴方達は…ウイドーと…ソロ」

☆ 【映像・衝撃派】スローモーションで弾かれる皆。

ゼロ 「本に…あんなの居たっけ？でも…夢でも楽しかったなあ。…皆、心配してるかな？」

☆ ワイルドが出てくる。一人でぶつぶつ言っている。

ワイルド 「あの子は…帰って来る…帰って来る…」
ゼロ 「…ワイルド？」
ワイルド 「ゼロ。お帰り。本当の願いを聞こうか」
ゼロ 「帰りたい。帰らなきゃ。心配してるもの。帰りたい」
ワイルド 「誰が？」
ゼロ 「だれか…だれか…が？」
ワイルド 「分かった。では…この世界の記憶を…」
ゼロ 「待って…！」
冒険譚 「その8、ゼロ元の世界へ」
ソロ 「約束を守るよ」
ウイドー 「ええ。必ず…」

☆ 《暗転》声が響く。

第7章 「現実へ」

姉 「ゼロ？ゼローロー…！」

☆ 飛び起きるゼロ。服装は変わらず。周りには誰も居ない。

ゼロ 「え？」
姉 「もー！心配させないで森には行くなって言ったのに…ああ」

☆ 抱き締める。パトランプが光っている。

ゼロ 「え？…ひっ…ひ…」
姉 「森で倒れてたの…立てる？救急車が来てるから…落ち着いて…ほら…本よ？」

ゼロ 「ひ…ひ…」

☆ 本を受け取り抱き締める。

ゼロ 「は…はあ…」

姉 「落ち着いた？」

ゼロ 「うん…大丈夫だから…大丈夫」

姉 「でも！」

ゼロ 「大丈夫！本当に大丈夫だから…すぐ行く…」

☆ 離れていく姉。放心状態のゼロ。

ゼロ 「何…？なんだか…靄が懸かっている…大切な事…なのに」

姉 「ゼロ？（袖声）」

ゼロ 「ごめんなさい！皆！」

☆ 走り去る。冒険譚。舞台上に皆が行き来する。

【映像・絵本の様なイメージ（1―2分）】。早替え（ゼロ）。

第8章 「大人」

冒険譚 「その9、ゼロ成長していく」

冒険譚 「その10、ゼロ運命の人と出会う」

冒険譚 「その11、ゼロ大学を出る」

冒険譚 「その12、ゼロ社会に出る」

冒険譚 「その13、ゼロ自立し、会社を立ち上げる」

冒険譚 「その14、ゼロその15、16、17、18、19…」

冒険譚 「その20。ゼロ我が家に帰って来る」

☆ 響き渡るゼロという声。

《明転》大人になったゼロが出てくる。スマホを持っている。

ゼロ 「お姉ちゃん？着いた…うん。ええ。大丈夫よ…幾つだと思ってるのよ

？？ハイハイ。じゃあ切るよ？はい…管理すればいいんでしょ？…

こっただって忙しいのに、こんな所まで来ているの…！分かっている！

あー…小言もう沢山。バイバイ、元気で。また会いに行く。うん、愛

してる。お姉ちゃん」

☆ 電話を切り、玄関の前に立つゼロ。

ゼロ 「やっほー！私よ？ゼロよ？元気？なーんて…」

☆ 【SE】 玄関を開ける音。

ゼロ 「別に…こんな家に特に興味ないけど」

☆ 見回すゼロ。後ろから現れるソロ。

ソロ 「わ！」
ゼロ 「何！もー…やめてよ」
ソロ 「荷物を持ってきたのにそんな感じ？」
ゼロ 「彼は最近出会った…なんていうか…彼氏ってやつ？私を理解してく
れる人」
ソロ 「何？」
ゼロ 「何って？」
ソロ 「ずっと機嫌が悪い。君の住んでた家なんだろう？」
ゼロ 「迷惑よ」
ソロ 「そうか…当時の事…あんまり知らないけど…その…」
ゼロ 「気にしないで。私はただ」

☆ 【SE】 着信。

ゼロ 「幸せになりたいだけなの」

☆ 電話に出る。

ゼロ 「なに？ええ、だからその件は…！いいですか？トランプは…大人にも
子供にも…幻が必要なんです！だから…は？何？どういう事？え？？
ちよっと！もしもし！もしもし！」
ソロ 「どうしたの？」
ゼロ 「(溜息)…買収だって。凄いな。私の現実…とことん…終わってる…」
ソロ 「何を言ってるの？」

☆ 玄関先へ追い出しながら。

ゼロ 「ごめん。出て行って」
ソロ 「どうしたの？」
ゼロ 「気分が悪くて」
ソロ 「そっか…急なことだったもんね」
ゼロ 「ごめん」
ソロ 「いいよ」

☆ 扉を閉める瞬間。

ゼロ 「私なんか幸せになれない」
ソロ 「え？待って」
ゼロ 「さようなら」

☆ 【SE】 扉を閉める。ウィドーがいる。

ソロ 「中々…記憶って難しいな」

ウイドー

「そうね」

ソロ

「はあ…占いでも行こうか」

☆ ソロ、ウイドーが去る。頭を掻くゼロ。

ゼロ

「はあ…あああ！もう！」

☆ 【SE】雷が鳴る。

ゼロ

「なんでかなあ…あ…！ソロに傘渡すの忘れてた…ま、いいか」

☆ 天を見上げるゼロ。

ゼロ

「またここからか…ママ…ママ…私頑張った…もう…いいかな…？」

☆ 森が騒めく。あちこちから『ゼロ…ゼロ』と聞こえる。

ゼロ

「何！？」

☆ 静かな家。スラムが近くに来る。

ゼロ

「気のせいか…」

スラム
ゼロ

「ゼロ」
「わあああああ！」

スラム

「ぎゃあああああ…！」

☆ 【SE】雷が鳴る。

ゼロ

「え？なに？夢？」

スラム
ゼロ

「ぼぼぼぼ僕だよ」

スラム

「仕事の過労ね。完全に私は壊れたわ。イヌが喋るなんて
「僕だよ？覚えてない？」

☆ 【SE】雷が鳴る。二人で叫ぶ。

スラム

「こ、ここは怖い所だね」

ゼロ
スラム

「え…本当に？イヌが喋ってる？」
「さ、触ってみれば…いいんじゃない？」

☆ スラムに触る。

ゼロ

「ない…ないないこんな事！病気ね…電話しなくちゃ！」

スラム
ゼロ

「き、君は病気じゃないよ！スラムだよ！ほら！」
「スラム？」

スラム
ゼロ

「き、君がくれた大事な名前だ。頑張って」
「わたしが？」

☆ ゆつくりと全キャラクターが出てくる。【SE】雨が降り出している。

スラム

「あ、あのね！頑張って願って！キミを迎えに来たの！…まずい！あいつが来る！いいから早く！」

ゼロ

「何処へ？きやああ！！！」

☆ ソロが扉を開ける。走り去る二人。

ソロ

「ゼロ！ごめん、雨が…。ゼロ？ゼロー？どこだ！」

☆ 雨の中、木に到着する。

スラム

「ここ！この木に触って！」

☆ 大きな木がある。

ゼロ

「ここ…魔女の森？なんで触るの？」

スラム

「い、いいから早く！触って！」

☆ 木に触る。【SE・ぴちよーん】

ゼロ

「ああ。これが私？」

☆ 全員揃っている。

ゼロ

「私の本当の姿。【幻】の姿」

☆ 【映像・OPアクト】スラムとゼロ以外居なくなる。

† 幻— I 「現実と幻」

スラム

「起きて…ねえ…起きて…」

ゼロ

「わ！イヌ！？」

スラム

「スラムだって！」

ゼロ

「何…何がどうなって…え？あ……」

☆ 【映像・景色】変わり果てた世界。

ゼロ

「で？私をからかってそんなに面白い？あははは！面白いわよね！私みっともないもの！もういい！？何をやっても、人生も会社も上手く行かない！テレビで放送されてるんでしょ！？ドキュメンタリーとか！？あはは！そうよね！私、行方不明になった事あるんだもんね！？」

☆ 叫んだ後、ぶつぶつ言いながら座り込むゼロ。

ゼロ 「笑いなさいよ…」
スラム 「き、君はみつともなくないよ…僕らの」
ゼロ 「うるさいな！」
スラム 「と、友達だ…そうでしょ？」

☆ 手を伸ばすゼロ。ふるふる震えながら眼を閉じるスラム。

ゼロ 「友達…？」

☆ 撫でるが…。

ゼロ 「君が？」
スラム 「がーん！」
スート 「そこまでニヤ」

☆ 自信満々に登場するスート。

スート 「おかえり、待っていたニヤ…。随分と…あの…あの…大人になったニヤ！」

ゼロ 「誰？」

スート 「がーん！」

ゼロ 「何でもいいんだけど…帰してくれない？」

☆ スマホを見るゼロ。

ゼロ 「は？圏外？ちよつと！いい加減にしてよ！流石にこれは無いんじやない！？ねえ！」

ワイルド 「そこまで」

☆ 凄いいい感じに出てくる…が。

ゼロ 「誰？」

ワイルド 「がーん！！！」

ゼロ 「あのさ。いい加減にしてくれない？仕事あるんだけど」

ワイルド 「ま、まあまあ！こちらへ…この木の下へ…」

スラム 「ね？こちらへ」

☆ 渋々ついていく。【場転準備】 エースが出てくる。

エース 「本当にあの子が？」

キティ 「はい」

エース 「今回は…相談したよね？細かく」

キティ 「はい、しましたね」

エース 「よしよし」

キティ 「エース様は抜けている所がありますので」

リード 「全くだ！」
エース 「う、うるさいな！…スラムやったね。ああ！こうしちゃいられない。皆、準備を！」

☆ すれ違いで去って行くエース。その頃…。

ゼロ 「ねーあのさー帰して。そろそろ」
三人 「がーん！！！」
ゼロ 「そういうのいいから。分かる？こっちにも仕事あるの！例えば会社がピンチでも…」

☆ スマホを握る。

ゼロ 「皆に幻を見せなきや…」
ワイルド 「幻ね」
スラム 「あの…」
ワイルド 「いいんだよ。ありがとうスラム。スートも…キミの名前は？」
ゼロ 「名前？聞いてどうするの？」
ワイルド 「名前は？私はワイルド」
ゼロ 「ゼロ」
ワイルド 「そうかい。変な名前だ」
ゼロ 「そう？私の方がよっぽど変だと思うけど…あはは」
ワイルド 「じゃあ、キミはゼロね。よろしく」
ゼロ 「何なの？」
ワイルド 「私はワイルドで、スート、スラム」
ゼロ 「もう聞いたって！馬鹿にしてる訳？」
ワイルド 「キミには分かるのかい？馬鹿にしない大切な物…」
ゼロ 「は！？何言って」

☆ 森の騒めき。

ワイルド 「おふざけが過ぎたようだ」
ゼロ 「ふざける？私のどこが！？」
ワイルド 「さあ、お行き」
ゼロ 「どこに！？あー！もう！訴えてやるから！」
ワイルド 「そうだね」
ゼロ 「ついてくるんじゃないの！？」
ワイルド 「私は…」

☆ 出ようとする。昔と同じ。出られないワイルド。

ワイルド 「これが約束だから」
ゼロ 「はあ！？本当に訴えてやる！アンタの顔！忘れないからね」
ワイルド 「ああ。忘れないように。おっと、出ていくなら最後に…キミの願いはなんだい？」
ゼロ 「願い…？」

ワイルド 「キミの願い：一つ叶えてやろう。その代わり」

☆ ゼロの頭を指さす。

ワイルド 「この物語から出る時：大切な物を貰う」

ゼロ 「大切な物？」

ワイルド 「そう…。君の大切な…【幻】の記憶を」

ゼロ 「はいはい：分かった。こんな所にも…なんにもないからね！何？
何でもいいわよ？なんだったら、向こうの記憶を忘れたいくらい！！

あーあ！！」

ワイルド 「契約成立だ。ようこそ。【ファンタジー】の世界へ…」

ゼロ 「うん。それは分かった」

三人 「あぎゃー！！！」

ゼロ 「で？何すればいいの？これ脱出ゲーム？早く出して」

ワイルド 「この先に…」

「村がある！で！？城に行ったら魔王様がいる！それを倒すんでしょ
！？そんな簡単な設定、今の時代流行らないわよ！」

☆ 忘れているゼロ。シュンとしているスラム。頭を撫でるワイルド。

ゼロ 「なんでスマホが反応しないのよ…！っていうかアンタ幾つ？恥ずか

しくないの！？こんな事してて！」

ワイルド 「幾つ…幾つなんだろう？でも」

☆ ワイルドが手を差し伸べる。

ワイルド 「君が…来てくれた。それだけでいい…」

ゼロ 「はあ！？ホントに何！？信じられない！私はね！忙しいんだから！」

☆ ゼロが去る。

スート 「大丈夫かニヤ」

ワイルド 「大丈夫…この世界には役割がある。私はあの子の願いを叶える為…
もう一度」

スート 「随分と居られる場所…少なくなったニヤ…」

☆ 【SE】手を伸ばすと焼ける音がする。

ワイルド 「スラムのお陰だよ…皆のお陰か…ありがとう。私の代わりに幻を叶え

てくれて…皆と出会う時…あの子に記憶を…大樹よ。代わりに…」

スラム 「ダメだよ！」

☆ 【SE】風の音で聞こえない。光輝く木。

ワイルド 「いいんだ。契約成立だ。ありがとう、スラム。さ！行け！」

☆ スラムが駆け出す。

ワイルド 「あの子が名前をくれたんだから。…さ！アンタもお行き！」

スート 「冷たいニヤ」

ワイルド 「そうかい？」

☆ 最後の別れ。去るスート。見送るワイルド。

場面転換で村の準備をしている。

ワイルド 「幻の世界が救われるよう…さて、準備するかね。ワイルド…ワイルド」

☆ ゼロがテトラにぶつかる。

ゼロ 「あ…ごめんなさい」

テトラ 「ん？」

ゼロ 「え？パパ？」

テトラ 「ん！？え！？ゼロ！？ゼロなのか！？」

ゼロ 「嘘でしょ？なんでこんな所に！？何してるの！？嫌がらせにも程が無い！？」

テトラ 「待って待って待って！いいからちよつと待って！」

ゼロ 「何よ！離して！」

テトラ 「なんで戻って来た！…確かに名前を貰ったのは嬉しかった…！だけど

！今その所為でおかしな事になってるんだ！」

ゼロ 「はあ！？」

ジデイ 「なに！？うるさいわね！」

☆ ジデイが現れる。

ゼロ 「お姉ちゃん！？最悪…」

テトラ 「ジデイ…！」

ジデイ 「え？お姉ちゃん？何言ってるの、この子。牢に入れなさい！名前を付けて狂わせた犯罪者よ！」

ゼロ 「牢？はいはい、分かりました！自分で入ります！でもいい加減にしてよね」

ジデイ 「しー！今は大人しくして！」

ゼロ 「あー…テレビだもんね。分かりました。お姉ちゃんがこんな事に乗るなんて…」

テトラ 「ここに！ね！いてくれ…！捕まえたぞー！！！」

☆ 牢に自ら入るゼロ。

ゼロ 「で！？ここから、何！？ねえ！何すればいいの！？時間を返して欲しいんだけど！あーもう…！嫌がらせにも程があるでしょ…！みじめね…！」

☆ ペンダントを見る。

ゼロ 「何もかも…幻ね」
スラム 「ワォーン!!!」

☆ 外が騒がしい。スーツが鍵を持って出てくる。

スーツ 「しー!…スラムが気を引いてくれているニャ!今の内にそれで!…何してるニャ?」
ゼロ 「あのさ。全く届かない。ほら、見てよ。手が…ね?ほら。届かないの分かる?ほら!ほら!!!!」

☆ 大人になつているから鉄格子から手が入らない。

スーツ 「ニャにー!?昔は届いてたニャ!」
ゼロ 「あんたが開けなさいよ…それ!ホラ!右に回せば」
スーツ 「誰か来るニャ」

☆ テトラとジディが来る。

テトラ 「まだ出てないのか!?!」
ジディ 「もー!かして!スーツ!」
スーツ 「助かるニャ!」

☆ 鍵を開ける。

テトラ 「急いでジディ!」
ジディ 「うるさい!アンタはいつもいつも!」

☆ 鍵が開く牢。ゆっくり出てくるゼロ。

ジディ 「なんでそんな余裕なの!?!」
ゼロ 「は?」
テトラ 「早く逃げて!」
ゼロ 「どこに?」
皆 「え?」
ゼロ 「どこに逃げるの?教えてよ。お姉ちゃん」
ジディ 「…いい?」
テトラ 「ヤバイよ!」
ジディ 「貴方が何を勘違いしているか分からないけどね?私達はこの幻日に生きています。貴方が名前をくれたから…おかしくならずにいるの」
ゼロ 「意味分かんない」
テトラ 「おい、いいか?ゼロ?この世界はな?お前が名前を付けたから…あー…もう何て言ったらいいんだ…」
ゼロ 「パパ…いい加減にして」
テトラ 「パパじゃない!キミが…パパだ。ママでもある」

☆ 声(袖中)が近付いてくる。

スート 「やばいニヤ！」

ジデイ 「いい……」

スート 「え？」

ジデイ 「いいから！」

テトラ 「いいか？君は名前をくれたんだ。でもその所為で……名前を付けてもら

えなかった子達とのバランスが崩れた……！この世界はぐちゃぐちゃだ

！皆、パパとママを求めているんだ。僕達にくれたように！」

ゼロ 「パパ……？ママ……？」

テトラ 「行きなさい！この世界は残酷だ！それでも！キミがくれた名前に恥じ

ない様に生きるよ！」

ゼロ 「うざ……なにそれ。アンタなんて大嫌い……。いい顔ばかりして……お姉

ちゃんも……私はもう！子供じゃない！」

ジデイ 「……そうみたいね。スート！頼むよ！」

スート 「わ、分かったニヤ！」

ジデイ 「走れ！」

☆ ゼロを連れていくスート。居なくなるスラム。

ジデイ 「カッコイイ所あるじゃないか」

テトラ 「そりゃ……パパなんて言われたら」

ジデイ 「今度おこつてやるよ」

テトラ 「え！？本当に！？」

ジデイ 「その前にまずは……（見渡す）この子達を説得しなきゃ」

テトラ 「うん！」

☆ 入れ替わり。スラムが合流。

スラム 「ただ大丈夫だった？」

ゼロ 「イライラしたわ……。スート！スラム！次は何！？」

スラム 「お、怒らないでよ！頑張ったんだから！……だからさ！ほら、……！」

† 幻Ⅱ 「親」

☆ 寝ているリードを起こす。（テーブルを蹴るような仕草で起こす）

エース 「（咳払い）ようこそ！我が家へ」

ゼロ 「……」

スラム 「……ほら！君の席だ」

エース 「そう、そうだ！君の……」

☆ 座るゼロ。

エース 「そう……君の席だ」

リード 「うおおお！ゼロ……！ゼロだ……！」

エース 「黙れ！いいか？私は賢者だぞ！」
ゼロ 「賢者？どこがよ？」
エース 「えっと…君は…あれだ。ゼロで合ってる？」
ゼロ 「ゼロよ！グリムの経営者」
エース 「経営者？」
ゼロ 「そうよ」
エース 「えー、それは…立派になった！」
キティ 「ええ。立派になりました。お茶は如何？」
スラム 「そそそ、そんな事言っている場合！？」
スート 「あのニヤ…」
リード 「ミルクティーがいいな！」
ゼロ 「エース！いい加減にして！」
全員 「え？」
エース 「え？名前言った？」
キティ 「まだ言っていないません」
スラム 「それはね…」

☆ スラムがしゅんとしている。

エース 「そうか…皆、一生懸命だ。これは占ったのか？」
キティ 「いいえ？ここで伝える筈でしたが…」
エース 「じ」
キティ 「じゃあ、ここで遊んでみようか？と言っても何も出来ないエース様の姿が見えます」
エース 「…素晴らしい未来だ」
キティ 「それほどでも…ちなみにこの先」
エース 「いい！自分で！やる！」

☆ スラムの頭を撫でてあげるエース。

ゼロ 「…」
エース 「皆集合！右から名前を呼んでみて？ほら！ほら！」

☆ 名前を上げる。

エース 「ああ…ごめんごめん。あー君はやっぱりゼロだ」
ゼロ 「だからそう言ってるじゃない…。久しぶりね…エース」
エース 「えっと…いつから？」
ゼロ 「こつちに来た時から…幻だと思ってた」
キティ 「この先…」
エース 「いいよ！いい。自分で見る」
リード 「久しぶり！ゼロ」
ゼロ 「リード…」
「俺達は！名前を付けた親が帰って来るのをずっと待ってたぜ！であの木に…」
ゼロ 「ああ…あああ」

キティ 「ゼロ様は泣きます」
エース 「だろうな」
ゼロ 「あああああああああ！！！！！！！！！！」

☆ 泣きわめくゼロ。ワイルドを隠すように皆が行き来する。
ワイルド 「泣かないの…泣かないで…ほら…」

☆ 居なくなるワイルド。入れ替わりで出てくるウイドー。

ウイドー 「あの子が…帰って来た…ふふふ…」
エース 「もう！失敗しないぞー！ほら、準備だ皆」

☆ 【SE】食器が倒れる音などが響き渡る。去るウイドー。

† 幻Ⅲ 「狭間」

エース 「えーと…泣き止んだ？」
リード 「みただいな！」
ゼロ 「まあ…」
エース 「改めて、お帰り。ゼロ」
ゼロ 「ただいま。私はなんで戻って来たの？それに…」

☆ 【映像・淀んだ景色】見渡す。

ゼロ 「なんかどんよりしてるけど…どうしたの？もつと綺麗な世界だったけど…ママの世界は」
リード 「お前が名前を付けたからバランスが崩れたんだよ！」
ゼロ 「え？」
エース 「こら！そういうのはしーだ！」
ゼロ 「名前…あれ？付けたら幸せになるんじゃないやなかった？」
エース 「そう！そうなんだけど…」
キティ 「ゼロ様は元々この世界に居ない者にまで名前を付けました」
ゼロ 「居ない？居ない人なんていた…っけ？本当に意味が分からないんだけど」
エース 「意味の無い世界に意味をつけてしまった」
ゼロ 「何言ってるの？」
リード 「(こそつと)あいつが見ているかもしれないから下手に喋れないんだと！」
ゼロ 「あいつ？」
エース 「あー！勿論、あの時の様な…あーうん…。この話は止めよう。どうだろう？その」

☆ リードがステッキ持って来る。エースが受け取り格好つけるが…。
【SE・ドンガラガッシュャーン】

エース 「今回は僕達を…仲間にするってのは？」
ゼロ 「どうしたの？…まあなんか喋れないならいいわ。大人だもんね。で？
あのさ…」

☆ 後ろを向いた瞬間。

エース 「よく連れて来たぞ！スラム！スト！」
スラム 「ああああありがとう！」
スト 「ニヤハハ！」

☆ 振り返るゼロ。格好つけたポーズに戻る。

エース 「ん？何か？？仲間にはびったりだ」
ゼロ 「はいはい。聞いてた？今回私は何をすればいいの？」
エース 「んー…まあ…非常に残念な事だが…」
ゼロ 「何？キングの所に行けばいいんじゃないの？」
エース 「名前を消して欲しい」
ゼロ 「なんで？」
エース 「分かるだろ？この世界は君の世界じゃない。君だって…僕らの事忘れていただろ？」
ゼロ 「そうだけど…じゃあ、なんであの時名前を付けさせてくれたの？」
エース 「それは…分からないんだ…それが良いと思った。んー…」
ゼロ 「ただいま…この世界は【あやふや】になっております」
キティ 【あやふや？】
ゼロ 「ええ。とある人物が、貴方のいる世界とこちらの世界を行ったり来たり…」

☆ キティの説明に合わせて、スト達が表現する。

キティ 「この世界と貴方の世界は表と裏。交わらない世界なのです。なのに、それを壊すものが現れた。例えば…水面に映る自分と手を繋ぐ事が出来てしまったらどうです？」
ゼロ 「こわ」
キティ 「ですよね？この世界は意味を持ってしまい、貴方の世界と繋ぐ境界が崩れているのです。その所為で世界が歪んだ。今回あなたが目指すのは…かつての仲間を集め。再びキングの元へ向かい名前を…」
ゼロ 「ちよっと待って！ママの絵本のキャラクターに名前を付けて何が悪かったの？」
エース 「絵本…というのは分からないが…居ない人物に名前を付けた。だから…全部リセットするしかない」
ゼロ 「絵本に居ない…？それは…？」

☆ 森が騒めく。

エース 「まずい！喋り過ぎた！ここから離れよう！！」

ゼロ 「どこに!？」
リード 「今回は俺達もいるぜ！」
スラム 「みみみ皆で乗り越えよう！」
キティ 「闘技場へ。懐かしいでしょ？」
ゼロ 「あー…ね」
スート 「ニヤハハ！」

☆ 皆が去る。と、同時にソロが来る。

ソロ 「お姉さん? そうなんです…急に居なくなっちゃって…ええ…連絡が取れたら折り返し…はい…【魔女の森】? 知りませんが…分かりました…ああ! 電波が…ああー」

☆ 電話切る。

ソロ 「向こうに行ったのか…ゼロ…! ウイドー!」
UIDO 「はい」
ソロ 「【幻】の世界に行くぞ…! 何故言わなかった!？」
UIDO 「聞かれませんでしたので」
ソロ 「くそ…約束を守るんだ。そうだろ？」
UIDO 「ふふ…ありがとう…帰って来てくれて…」

☆ ワイルド。

ワイルド 「いい? この世界は」
ゼロ 「壊れた世界で…いつか迎えに来て…私を守ってね…悪い人」

☆ 静かな闘技場。隠れて見ている。

† 幻―IV―「かつての仲間」

ゼロ 「あいつ何やってんの? それに…」
クラブ 「うおおおお!!」

☆ 一人で暴れているクラブ。

ゼロ 「もつと賑やかじゃなかった? 確か」
エース 「これが影響だ…今じゃ【あいつ】が怖くて…! 誰も来ないのさ。たまに帰って来ては滅茶苦茶な事をいうから、どんどんこの世界がおかしくなる…」
ゼロ 「ふーん…この世界にそんな悪い奴いるんだ…」
リード 「いいぞ! 戦いだな!」
ゼロ 「気に入らないわね」

☆ 立ち上がる。

ゼロ 「待ってて。任せて」
クラブ 「あー…誰も居ない…おらあ！かかってこいや…誰かあ…誰か…あ？」
ゼロ 「や」

☆ その隙に。

エース 「僕はここで…！任せたま、皆！」
リード 「なんだよ！この戦いを！」
エース 「よーし黙ろう黙ろう、ね？あいつが帰って来る前にやる事があるんだ…！」
リード 「俺様もいくぜ！」
エース 「よしよし、いい子だ。君の予言信じるよ？」

☆ キティ、リード、エースが消える。

クラブ 「なんだあ？対戦相手かあ？」
ゼロ 「あー…みたいね。久しぶり。観客とか誰も居ないけどこれで成り立つの？」
クラブ 「ん？お前…女じゃねえか」
ゼロ 「女よ？何か問題でも？」
クラブ 「相手にならねえ帰りな」
ゼロ 「じゃあ、他に相手ってどこにいるの？」
クラブ 「あ！？そこに！」

☆ 誰も居ない。

クラブ 「そこに…いたじゃねえか！」
ゼロ 「…」
クラブ 「ここはなー…前はすげえ盛り上がる闘技場だったんだ…。でも、もうそうじゃねえ…空っぽだ」
ゼロ 「だから何？頭悪いの？私と戦うんでしょ？いいよ。来なさい。ほら怖い？情けない。誰も居ない闘技場で？優勝者きどり？？聞いた事無いわ、そんなの？いい！？現実は！！戦うより怖い事なんて一杯あるの！！それが何よ情けない。ダサい！ダサいわ！アンタすんごくダサい！これが仲間！？笑えるわ。要らないわ、こんな奴！…はい。終わり。どうぞ？何かあるんだったら…あー…時間の無駄」
クラブ 「ゼロ？ゼロか？ゼロなのか？おい！」
ゼロ 「見たら分かるでしょ！？アンタはクラブでしょ！？しっかりしなさい！」
クラブ 「顔を見せてくれ…」

☆ ゼロの顔を見る。感動的に見せて…。普通に手を弾く。

ゼロ 「は？触らないで欲しただけど…汚っ！」
クラブ 「変わらねえな…」

スラム
クラブ
スト
ゼロ
クラブ
ゼロ
クラブ
ゼロ

「うん…強気な所は全然…」
「懐かしいな…帰って来たのか…って事は」
「そういう事だニヤ」
「何！？こそこそ！」
「いや…何でもない。行くか。仲間の元へ…あー一つ」
「ん？」
「変わってるから驚くなよ」
「変わった…ね。私かも…それ。なんでもない。行こう」

☆ 【映像・教会】

スピード
ゼロ
スピード
ゼロ
スピード

「何か御用ですか？迷える子羊よ」
「うわー…まっとうな事してる…あり得ない」
「奇跡の施しが必要ですか？」
「埃だらけじゃない…施しとか言う前に掃除したら？」
「失礼ですよ！神を前にして貴方！！！」

☆ 振り返る。

ゼロ
スピード
クラブ
スピード
ゼロ
スピード
ゼロ
スピード
ゼロ
スピード
ゼロ

「久しぶり。覚えてる？詐欺師のスピードさん」
「…ゼロ？ゼロなの？え？クラブ？」
「よ、よう！あー…そう。ゼロだ」
「言いたい事は沢山あるけど…え？何しに来たの？」
「それはこっちのセリフよ」
「どういう意味かしら？」
「神様に何を祈ってるの？下らない。貴方ね！もつとやるべき事ないの！？仕事は！？」
「僧侶…」
「なんでしょ！？祈るくらいなら自分で何とかすれば！？大人よね！？アンタ！あー恥ずかしい。誰も？居ない？こんな？埃だらけの教会で？私が大人だったら！ギャンブルでもしてるわ！それで幻を見せる！子供たちに！」
「本気で言ってるの？」
「本気も本気よ！何にも出来ないなら…約束も守らない…ああ、そう」

☆ 会社の事を思い出す。

ゼロ
クラブ
ゼロ

「動かない方がいい…。それが大人ね…ごめんなさい。何も私が言える事なんて…無いわね…自分の事を棚に上げたわ…そうね。静かな暮らしもいいのかも…偉そうに言ってごめん」
「おい！俺の時は強気だったのに」
「ごめんなさい」

☆ 出ていくゼロ。追いかけるスラムとスト。

スピード 「何よ…今更…この世界を滅茶苦茶にしたのはあの子でしょ？」

クラブ 「でも、もしゼロがここに来なかったらどうだった？カジノに闘技場：一生つまらない人生だったろ？」
スピード 「私は楽しかったわよ！名前なんて付けるから世界があやふやになった！そうでしょ！？」
クラブ 「本気で言っているのか？何に祈ってた？お前は」

☆ スピードとクラブが居なくなる。ゼロが外に出ている。

スラム 「あ…あのさ」
ゼロ 「…」
スラム 「ど、どうしたの？」
ゼロ 「ごめん」
スラム 「大人になったらそんなに大変なの？」

☆ 言葉が出ない。コソコソとダイヤが出てくる。

ゼロ 「でも…何とかしないと。人生は楽しやないの…色々思い出しちゃった。あの頃は楽しかった…」
スラム 「で、でも…あのね…その…僕達はキミと出会えたよ？」

☆ スラムの頭を撫でる。

スート 「ん…あいつが居るニヤ」
ダイヤ 「こ、こんにちは…」
ゼロ 「…ダイヤ…久しぶり」
ダイヤ 「あー…んー…なんかあれだね！随分と大人っぽくなったね。ゼロ」
ゼロ 「ね…。なんで大人になるんだろう？なっちゃったんだろ」

☆ 皆が来る。シーとするダイヤ。隣に座る。

ダイヤ 「そうだなあ…えっと…ほら！筋肉付いただろ？俺！見て！」

☆ アピールするダイヤ。

ダイヤ 「…ごめん…ねえ…大人って楽しい？」
ゼロ 「分らない」
ダイヤ 「俺ね。あんまりいい剣士じゃなかった。あんまりじゃないか…ダメなヤツだ」
ゼロ 「うん…あ！またこそこそ話聞いてたの？」
ダイヤ 「あはは…！でも、ほんのひと時変わったんだ！名前を付けてもらって…なんか…そう、その…ひと時…大人になって君は何になったの？」
ゼロ 「何にもなれてない。でも変わっちゃったの、私…」
ダイヤ 「え？ええ？？何が変わったの？ごらんよ」

☆ 景色を見る。

ダイヤ 「俺達から見るキミは…いつものキミだ」
ゼロ 「何も知らない癖に…私がどんなに苦労してきたか！分かる！？」
ダイヤ 「それでも…ヒーローなんだ。俺に…！俺達に名前をくれた！見てよ！
ホラ！剣も振れる！」

☆ 子供のままのダイヤ。泣きながら笑い合う。

ゼロ 「もー…」
ダイヤ 「あ…あはは！」
スペード 「…ああ」
クラブ 「ん？」
スペード 「久しぶりに…いい天気」
クラブ 「そーだなあ…」
ダイヤ 「俺いい仕事したよね？」
ゼロ 「ばーか！それは仕事じゃないよ…大切な繋がり」
ダイヤ 「お、おう！繋がりだね！」
ゼロ 「ごめん…行こう。ハートの所に」

☆ 去って行く。

ウイドー 「キング…来ましたよ」
キング 「そうか…帰って来たのか」
ウイドー 「ええ」
キング 「どうするのか…見ものだな」
ウイドー 「そうですね…ふふ…あはは…哀れなキングよ…」

☆ 高らかに笑うキング。ハートの元に来る皆。【映像・森の中】

ハート 「…あらら。物騒な…」
ゼロ 「ハート…」
ハート 「…私はもう魔法使いじゃないの。当たるなら他に…ここで本を読
んでるのが私の【皮肉で】チープなストーリー」
ゼロ 「あんたそんな感じになったの？」
クラブ 「ださ」
ダイヤ 「ひどい」
スラム 「こわい」
スト 「きもい」
全員 「はあ…」
ハート 「溜息やめて！やかましい！正しい魔法使いの形だと思うけど？昔より
ね」
ゼロ 「正しいって何かしら…」
ハート 「は？ゼロ！アンタが言えた事じゃないの！分かってる！？」
ゼロ 「うん。言えたことじゃないわね」
ハート 「え？？」

ゼロ

「型に嵌まるの嫌いだった。でも結局、嵌まってるの。ママの絵本は楽しかった。皆、思うままに生きていたから。でも…どう？今は？会社を抱えて【それが当たり前だろう】の世界。私の知ってるハートは実は優しくて…魔法使いなんて関係ない…自由に生きるママの世界に憧れたわ」

「なあ…」

クラブ
スピード

「なんか語ってるけど」

ダイヤ

「俺らの時に言ってくれれば…」

ゼロ

「なに！？」

全員

「なんでも」

ゼロ

「ハート。もう一度…この世界をやり直すのを手伝ってくれない？」

ハート

「…」

ゼロ

「貴方には心臓がある。生きてるんでしょ？だから…」

ハート

「あのね！もう、うんざりなのよ。この世界を壊されるの！私はね！」

☆ ゼロの顔をちゃんと見る。

ハート

「…昔の方が良かった」

ゼロ

「うん…そうね」

ハート

「昔のまま良かったの。だから」

ゼロ

「過去にしがみついて、考えるのを諦める？そんな感じ？」

ハート

「そういう自分はどうなのよ？」

ゼロ

「私は…そうね…大した人生じゃなかったかも。それでもね？私は私。貴方は？昔は…って良い言葉だと思う…でも、もっと素敵な今が…」

あるのかも…しれない…」

ハート

「答えになってないわ」

ゼロ

「だから…もう一度頑張らない？その…貴方の昔を取り戻す今を」

ハート

「…アンタ達も同じ意見？…いいの…本当に…」

ゼロ

「？」

スラム

「…決意で…皆頑張るんだ…」

ゼロ

「スラム？何の話？」

☆ 皆が顔を逸らす。

ハート

「…なるほど…まあ…そうよね」

ゼロ

「え…？リセット…つてもしかして…」

ハート

「まあ…お茶でも入れるわ。ゆっくりしなさい」

☆ 皆がゆっくりと座る。戻って来るハート。

ハート

「お茶無かったわ…その独り身なもので…」

スピード

「あんたね！」

ゼロ

「ねえ！」

☆ 沈黙。

ゼロ 「あの…さ。もしかして…皆の記憶なくなるとか…そういう話？」

† 幻―V 「幻日と現実」

皆 「…」

ハート 「なんでそう思う？」

ゼロ 「私…子供向けの会社…って分からないわよね…えっと…ママの絵本に憧れて…自分の【幻】を作る為に…頑張ってたの。だから…そういう物語は分かる」

「…」

ゼロ 「そういう事なんでしょ？ねえ…なんとかならないの！？これ以上…私から奪わないでよ！ねえ！」

スラム 「そそそ…その…あのね？」

スト 「ふー…。忘れたのはお前ニヤ」

「え」

スト 「勝手に忘れてたニヤ。約束を守らず」

ゼロ 「それは…魔女の森で…だって」

☆ 【忘れないから】という自分の言葉を思い出す。

ゼロ 「約束が…あれ？何を？ママと約束…？あれ？あれ？会社を守らないと…ママを守らないと…お姉ちゃん…パパ…！約束…約束が…！あれ？

あれ？？」

スラム 「スト！ちよつと待ってよ！」

スト 「何の為にこいつをまた呼んだニヤ…！」

☆ ウィドーが出てくる。

ウィドー 「そう…これで…これでいい」

ゼロ 「あれ？なに？私は…なに？」

ウィドー 「全ては予言通り…貴方は私を…」

スピード 「落ち着きな！」

クラブ 「おいおい！大丈夫だ！」

ダイヤ 「息をして！」

ハート 「なんだ？」

ゼロ 「わ…わたし…？わたしは何を…？？」

クラブ 「ハート！」

ハート 「待ってな！」

☆ 本を取りに行く。抱きしめ、寄り添う皆。

ゼロ 「ひっ…ひ…わ…わ…わたし…ママ…」

スラム 「大丈夫だよ！ゼロ！」

スピード 「…」

☆ 軽くビンタする。

ゼロ 「…す、す…」
スピード 「情けないね。こっちは決意固めてるのに」
ゼロ 「ま…まま…お姉ちゃん…パ。パ…」

☆ ハートが本を持ってくる。手を伸ばす。

ゼロ 「ひ…ひ…」
ハート 「よし。いい子だ。大丈夫」
ゼロ 「はあ…はあ…なんで…ママの…本が…」
ソロ 「ゼロ！」

☆ ソロが来る。見ているウイドー。

ゼロ 「ソロ!?なんでここに?」
スピード 「まずいニヤ」
ソロ 「逃げる!!走れ！」

☆ ゼロが走って逃げる。

クラブ 「おい!嘘だろ!」
スピード 「アンタ!」
ハート 「とめる!」
ダイヤ 「ひい…」
ソロ 「動くな」

☆ 皆、時が止まる。

ソロ 「全く。困った奴らだ…皆、名前があればいいんだろう?邪魔しないでくれ。向こうもこちらも境界は必要ない。もう少しで境界は崩れる。そうしたら…本当の幻想世界だ。それまで待っている!ウイドー!」
ウイドー 「ええ。こちらへ」

☆ ソロが去ると動き出す。【場転準備】

クラブ 「なんだ、あのめっちゃくちゃな力!…あれが居ない奴って事だよな」
スピード 「もう!ここアンタの森でしょ!?!なんで気づかないの!?!」
ハート 「スピードが喉けたからでしょ」
スピード 「ニヤハハ。現実から目を逸らしているからニヤ」
ダイヤ 「喧嘩してる場合じゃないよ!」
スラム 「そ、そうだよ!早く追いかけないと!」
クラブ 「不味いぞ…」

☆ 追いかける皆。ゼロが逃げている。

ゼロ 「はあ…はあ…何？ソロが居るじゃない…皆が言っている事は嘘なの？
もう！ソロ！私ここよー！」

☆ 背後からデイル達近づいてくる。デッキがナイフを出して脅す。

ゼロ 「え…デッキ！？」
デッキ 「久しぶり！」
ゼロ 「デッキも…」
デッキ 「久しぶりー！！」
デイル 「ばか！」
二人 「頼むから今は大人しくしてくれ！」
デイル 「早く！」
二人 「はいな！はい！」

☆ ゼロを担ぎ、隠れようとするデッキとデッキ。

ソロ 「おーい！ゼロ！ゼロ！どこだ！？」

☆ 現れるソロ。

ゼロ 「ソロ！？」
デッキ 「いいから！」
デッキ 「ここに！！」

☆ 隠れる三人。

ソロ 「どこだ！？」
デイル 「はーい」
ソロ 「お前…何の用だ」
デイル 「あ…：貴方の声が聞こえたから。来ただけ」
ソロ 「ゼロを見なかったか？」
デイル 「ゼロ？」
ソロ 「分かるだろうが！」
デイル 「怒らないでよ…見ていないわ。ここに帰って来たの？」
ソロ 「もう少しで境界を破れるのに…ああ！くそ…：隠していないだろうな」
デイル 「そんな事する必要ある？」
ソロ 「探せ。見つけたら報告しろ…」
デイル 「はいはーい」

☆ ソロが去る。

デイル 「逃げるよ！いいから早く…！」
デッキ 「ゼロ！早く立て！」
デッキ 「ダメだ…歩く気ないみたい…」
デイル 「もー！来な！ここに居たら私達も殺されかねないよ！」
二人 「へい！」

☆ 見回すデイルル…。入れ違いで皆が来る。

ハート 「もう！何処！？」
クラブ 「この辺は確か…」
スペード 「匂いは！？スラム！ストート！」
ストート 「ここまでで途切れてるニヤ」
スラム 「…に、匂いがキツくて…」
ダイヤ 「あのさ！」
スペード 「何！？今は弱気なんて…」
ダイヤ 「そうじゃなくて！考えがあるんだけど…いい？」

☆ 去って行く。

デック 「ホラ！着いたよ、ゼロ」
デック 「大丈夫か？ゼロ」
ゼロ 「あ…ここは…」
デイルル 「私達の隠れ家さ」

† 幻―VI―「現実逃避」

☆ 【映像・廃墟がたたずむ】

デック 「いやー！一か八かだった！」
デック 「さすがあねご！あそこで飛び出していけるのは」
デック 「あねごしかない！」

☆ 姉御コール。ゼロが黙っている。黙る三人。

デイルル 「やれやれ。助けてやったのに…」
ゼロ 「ソロ…なの…？私がしてしまった事…」
デイルル 「あー…アンタが何考えてショック受けるのか分からないけど…
ま、そういう事ね」
ゼロ 「…」
デック 「あのさ…そうやって膝抱えてても変わらないぜ？」
デック 「そーそー。やっちゃったのはしょうがないし…何より知らなかった
しな、この話」
ゼロ 「うそ…」
デック 「だからさ」
デック 「前むいていこう！な？ゼロ！」
ゼロ 「嘘つかないでよ！…なんでハートがあの本持ってるの？ここは何？
ソロは何…？もう嫌…」

デック 「…」
デック 「…」
ゼロ 「…もう嫌…もう嫌なの…」

デイール 「そんなに辛いかい？まあいいや。そうしていたいならそうしてな」
ゼロ 「…」

☆ めっちゃ遊んでいる3人。

デック 「今日は俺だあ！飯食えよな！」

☆ めっちゃ遊んでいる3人。

デッキ 「なあ…聞いてくれよ…実は俺…好きな人がいてな…」

☆ めっちゃ遊んでいる3人。

デッキ 「今日は！」

デック 「今日は！」

デイール達 「今日は！私(俺)よお！！」

デイール 「おーほほほ！おほほ…」

ゼロ 「…」

デイール 「はあ…」

デック 「全く」

デッキ 「やる気も失せますわ」

ゼロ 「…」

デイール 「それで楽しいの？大人って」

ゼロ 「楽しくない…」

デイール 「あつそ」

ゼロ 「私より小さい癖に」

デイール 「なんですって！？あのね！こう見えても、きっとアンタより長く生きてるわ！」

デッキ 「確かに」

デック 「でも何歳？」

二人 「さあ？」

ゼロ 「ふふ…あのさ。ソロはなんで現実に居たの？」

デッキ 「覚えていないのか？」

デック 「頑張ったのになー…」

ゼロ 「ごめん…ソロの記憶だけ…思い出せないの」

デイール 「んー…嘘をつく理由もアンタには無いものね…あのね？この世界には

ね、居ない人がいるの」

ゼロ 「それが分からない！ママの絵本には…居た…はず」

デイール 「絵本…？それは何？」

ゼロ 「これ…あれ？嘘！どこで落とした!？」

デイール 「…これ？」

☆ デイールが持っている。

ゼロ 「返して！デイール！」

デイール 「えー…ほい！」

☆ デックとデッキで投げ合う。

ゼロ 「何してるの！？いい加減にして！」

☆ 転ぶゼロ。

ゼロ 「…」

デイル 「子供じゃない。アンタ」

ゼロ 「…返して」

デック 「いつまでこんなものに頼っているのさ」

デッキ 「君は君だろ？ママじゃない」

ゼロ 「返して！返して！！」

デイル達 「大人になるってそんなに辛いことなの？」

ゼロ 「楽しくない！でも！現実はね！アンタ達と違って残酷なの！遊んで暮

らせるなんてないの！やらなきゃいけないの！頑張らなきゃ！何も変

わらない！！返して！！！！」

デイル 「…そーですか」

☆ デイルが本を渡す。

ゼロ 「はあ…はあ…」

デイル 「ねえ。アンタは誰なの？アンタの人生はアンタの物じゃないの？」

ゼロ 「私の…人生？」

デイル 「いい？よく聞きな。アンタはアンタだ。そして私達は私達。絵本の世

界の住人とか知るか。アンタの幻は今、目の前で起きているのよ。アン

タの絵本を描きなさいよ」

ゼロ 「…私の…絵本？」

☆ 場転。エースが城に来ている。去る4人。

リード 「ふー！城だ城だ！全員やつつけてやる！」

エース 「こら…静かにしないか…！！バレるだろ！！」

キティ 「今度は完璧な…あ」

エース 「なに！？」

キティ 「キングが来ます」

エース 「不味い…ああ…不味い不味い、隠れろ」

☆ ウイドーとキングが来る。

UIDO 「…隠れても無駄です。キティ」

キティ 「貴方から声をかけてくるなんて…意外です、UIDO」

キング 「エースか？」

リード 「お前が悪い奴！おりゃー！」

☆ すぐ止める。

エース 「馬鹿馬鹿！やめろ！止めなさい！作戦通りに！」
キング 「相変わらず、そんな人形遊びが好きなんだな…お前は」

エース 「はあ…。もう…」
キング 「久しいな」

エース 「貴方もその…お変わりないよう。キティ！」
キティ 「はい？」

エース 「おかしいだろ…！今ここには誰も居ないんじゃないのか！？何の為の
占いだ…！」

キティ 「キングはまだ居ない筈でしたが」

ウイドー 「居ない筈だと思われているので先に来ましたよ…」

エース 「わあ…完璧だな。占いの…悪と正義？」

キング 「何をしに来た」

エース 「見れば分かるんじゃない？…兄さん。貴方こそ…何故この城に？」

キング 「賢者なら分かるだろう」

ウイドー 「私の方が上だったという事」

エース 「へ…：そうなの？」

キティ 「どうでしょうね？」

エース 「まあ…うん。ね。賢者と占い…どちらが優れているか…試す時間だ」

☆ リードが見て回っている。

キング 「この世界は…」

エース 「ああ！そういう説明はもういいんだ。どうして今ここに居るのかを知
りたい」

ウイドー 「あなた達が来ることを知って…」

キング 「黙れ！」

☆ 【SE・雷が鳴る】

エース 「おお…こわ。ウイドー。僕達の方に来ない？」

キング 「黙れ！」

☆ 【SE・雷が鳴る】

エース 「黙れ！って言う度に雷なるの？いいね。カッコいい。スマートだ」

キング 「何をしに来た？」

エース 「キティ…！これで良いんだよな！？」

キティ 「間も無くかと」

エース 「前回と違って…今回は…あ…：僕が居る。ちよつと変わったこと
してみない？あいつもここに来るんだろうし…平和に生きたくない？」

キング 「何を今更」

ウイドー 「キング。あの…」

キング 「黙れ！」

☆ 【SE・雷が鳴る】

キング

「いいか！エース！この世界は崩壊する！私が待った時が来る！それが役割だ！お前がこの城を出て行って！どれだけの涙が流れたかお前には分かるか！？私は世界を再構築する！ウイドーと共に！」

ウイドー

「…」

エース

「熱弁ありがとう。まー…でも…忘れてない？」

キング

「何？」

エース

「えー…僕の友達が一人いないの」

☆ リードが壁に手をかけている。

エース

「やっぱり、貴方は僕の兄だ。詰めが甘い」

キング

「やめろ」

リード

「この紐を引けばいいんだな！よし！任せろ！」

キング

「やめろー！」

エース

「いけ！」

☆ 紐を引く動作。

エース

「…これは…」

キング

「黙れ！」

☆ 【SE・雷が鳴る】。電話しているソロ。

ソロ

「ええ！連れて帰りますから！必ず…！」

☆ 電話を切る。

ソロ

「ゼロ…あそこか！」

☆ 【映像・影】ソロの周りに影が集まる。合図と共に霧散する。

ソロ

「もういい…この力で…！君がくれた力で…ウイドー…！」

ウイドー

「はい？」

ソロ

「良いと言え！正しいと言え！」

ウイドー

「正しいですよ？」

ソロ

「ならいい」

† 幻―VII―「幻日逃避」

☆ 城の近くまで来ている。ダイヤ達。

ダイヤ

「この先に入口がある！そこから入れば…！キングにも会える！ゼロとここで合流しよう！きつと来るはずだ…！」

ハート

「よくやったわ」

クラブ 「行くぞ！」
スラム 「こ、怖いよう！」
スト 「行くニヤ」

☆ 城に向かう。

スピード 「あんまり褒めたくないけど…ま、頑張った方ね」
ダイヤ 「ねえ！スピード」
スピード 「なに？」
ダイヤ 「…もしかしたら、これで会うの最後かもしれないでしょ？言いたい事があるんだ」
スピード 「最後？何言ってるの」
ダイヤ 「あの…キミってとても…セクシーだ！！だから！俺と」

☆ 居ないスピード。

ダイヤ 「うん、だよ。知ってた」

☆ ひよっこ顔出す。

スピード 「私、最後だからとか言う奴ホント嫌いな。頑張りましょ」
ダイヤ 「あ…ああ！スタートだ！スタート！待ってよー！！」

☆ 去って行く皆。ゼロ達。

ゼロ 「あれが城？」
デイル 「そ。で、あそこの塔…見えるかい？」
ゼロ 「あそこに…ソロが居た…」
デック 「名前はあそこで消せる」
デック 「それがルール…だよな？ファイナルなんだよな？」
ゼロ 「うん。うるさい。考えてるから黙って」
三人 「しよぼん…」
ゼロ 「もー可愛いな。うそうそ。ありがとうね」
デック 「にしても…本読めば？」
デック 「たしかに…それで確かめれば？」
ゼロ 「いいの。ありがとう。私は私の物語で…ママの幻から抜け出す」
デイル 「アンタの人生はアンタの物だ。忘れないように」
ゼロ 「うん…ありがとう」

☆ 【映像・影】影が迫り来る。囲まれている。

デイル 「わー…まあそうよね」
ゼロ 「何？あの…」
デイル 「これがソロの力…。あっちに行ったり、こっちに行ったり…何でもありなヤツ」
ゼロ 「…あのさ！」

デッキ 「うおおお!!!」
デック 「デッキ!」
デッキ 「あねご!ここは俺達に任せろ!」
デック 「ゼロを塔へ!」
デイル 「アンタ達!!!」
ゼロ 「ちよつと待って!あのさ!」

☆ 沈黙。影と戦っている。

ゼロ 「あれ?私だけ?見えないけど...」
デイル 「アンタには見えないの!?この影達が...!」
ゼロ 「影?」
デイル 「あいつ...全部飲み込んで世界を混ぜるつもりだわ」
デック 「なんて数だ...!」
デッキ 「やれるか...!?!」
ゼロ 「えつと...ごめん。見えない」
三人 「畜生!」
デイル 「馬鹿には見えないらしいよ!」
ゼロ 「え!?!」

☆ 沈黙。

ゼロ 「な、なんて数なの!?!」
デイル 「デック!デッキ!」
デック 「頼みましたぜ!あねご!」
デッキ 「ゼロが英雄かも知れないけど」
二人 「俺達の英雄はあねごなんだから!」
デイル 「馬鹿...。行くよ!」
ゼロ 「うん!」

☆ 去る二人。

デック 「見えないんだなあ...ゼロには」
デッキ 「みたいだな...でも。いつか見えるさ。この幻が」
デック 「カッコいい事言うな」
デッキ 「お前もな」
デック 「あのさ。名前が消えれば...この先記憶なんてなくなるんだろ?また
絵本の人物だ」
デッキ 「だからなんだよ」
デック 「あのさ」
デッキ 「あ?」
デッキ 「楽しかった」
デック 「こちらこそ」
二人 「うおおお!!幻見たきや!俺達を越えて行けえ!!!あねごおお!!」

☆ 戦う。やられる二人。

デッキ 「わりい…」
デッキ 「おい…何してんだ！デッキ！名前付けてもらったんだ！もう少し…」

☆ 【映像・影】影に貫かれる。

デッキ 「楽しもうぜ？なあ？…実は…じやじゃーん！」

☆ 爆弾を抱えているデッキ。

デッキ 「終わりがたくないから…作ってた」
デッキ 「ださ…それつかないぜ？これがないと」

☆ 点火材を持っているデッキ。

デッキ 「ほれ」
デッキ 「あー…あはは…どっちが現実逃避なんだか…」
デッキ 「かつこいいだろ？もういつちよ…」
デッキ 「いこうかあ！！」
二人 「うおおおお！！」

☆ 【SE・爆発音】消えていく一人。ゼロとディールが走っている。

ディール 「もう…馬鹿…！はあ…はあ…私もここで食い止めないと…さ！おい
き！」

ゼロ 「何言ってるの！？」
ディール 「ソロにもきつと生きる理由があつたって事…それを忘れちゃダメよ。
名前を付けるとはそういう事…。名前があるって…そういう事よ…。」

ゼロ 「ええ…私も好きよ！」
ディール 「頑張つて。さ！行きなさい。この階段を昇れば…ゼロのゴールよ」
ゼロ 「うん…！」

☆ 立ち止まる。

ゼロ 「あのさ！」

ディール 「何！？」

ゼロ 「これで本当にお別れとかじゃないよね？信じてるから！」

☆ 去るゼロ。

ディール 「お別れねえ…」

☆ ジワジワと影が来る。

ディール 「舐めないですよ…おーほほほ！！私はディール！あの子に…！幻の名前

を貰ったのよ!!」

☆ 笑いながら逆の方向に駆けていく。ウイドーとワイルドが居る。

ワイルド 「かわいい子…。いい？私はね？」

ウイドー 「なんで…居ないのかな…？ねえ！…ねえ！貴方は…！」

☆ ゼロが来る。消えるワイルド。

†幻―VIII―「いつか終わる幻」

ゼロ 「キング」

キング 「やあ…ゼロ。待っていたよ」

ゼロ 「ウイドーも久しぶりね」

ウイドー 「ええ…おかえりなさい」

キング 「さて…何から話そうか」

ゼロ 「そんな暇はないの」

キング 「私だってキングだ。一応…この世界のな。もう思い出しているんだろ

う？ソロに名前を付けた時」

ゼロ 「そうね」

キング 「どうだった？この世界に来て…こうして思い出すのは」

ゼロ 「キング…ソロはすぐそこまで来てるの！名前を…消さないと…いけ

ないんですよ？」

キング 「君が付けた名前だろう」

ゼロ 「それは…そうだけど…」

ウイドー 「お遊びで付けられた、適当に付けた名前…その程度の存在」

ゼロ 「そんな事無い！私は！ママ…」

☆ 思い出すゼロ。

ゼロ 「ママの所為にして…忘れていた…だけ…なの？」

キング 「その程度の存在なんだ。私達は…」

ゼロ 「それは…そうね…あの頃の私は…いや…今もかな。逃げ出したかったの！現実から。自分の存在価値なんて無くて…無いと思つて。本当

にろくでもない人生。パパも…本当はお姉ちゃんも大嫌い…でもね…好きな人も居る…それが皆よ。愛してるつもりだった。でも…きつと

それも幻なのよ。ごめんさい。何にも…言葉がまとまっていなくて…。

それでも…もし叶うなら…私にチャンスをくれない？」

キング 「どんな」

ゼロ 「幻と向き合うチャンス」

キング 「はあ…うーん…どうだろうか皆」

ゼロ 「え？」

☆ エースが出てくる。

エース 「ど、どうもー」
ゼロ 「エース？」
キティ 「これが結末…」
リード 「ふふー！俺様のお陰だ！」
ゼロ 「なんでここに？」
エース 「先に来たんだ。前はー…そうじゃなかったから？」
ゼロ 「無事で良かった」
エース 「キング。もういいでしょ？これで」
キング 「あーすまない、ゼロ。試すような事をして」
ゼロ 「どういう事？」
リード 「じゃじゃーん！」

☆ 【映像・お花畑】 自分の力で花を育てていたキング。
元の綺麗な世界が目の前に広がる。

ゼロ 「これって」
エース 「あー…ゼロ。君が帰って来る時の為に育てていたんだって。この花達を」
キング 「恥ずかしい…！」
ゼロ 「ありがとうキング…あの時の…景色だわ…ママの景色…でも…」
エース 「(こそこそ) 僕が早く来て良かったでしょ？」
キング 「うるさい…」
クラブ 「うおおおお！！」

☆ クラブが突っ込んでくる。

クラブ 「お？」
ゼロ 「皆！」
スピード 「まじかよ」
ハート 「信じられない」
スラム 「皆あー！」
ダイヤ 「ゲホゲホ…だから…言ったでしょ！」

☆ クラブが突き破った所から出てくるダイヤ。

ダイヤ 「え？なんか違う？」

☆ 【SE】 扉が開く音。

ディール 「もう…まだこんな所に居た訳？」
デック 「…どうやら生きてるみたいだ」
デッキ 「みたいだな」
ゼロ 「皆…！」

☆ 抱き締めるゼロ。皆が同じ場所に集まる。

エース 「皆よくやった！」
キング 「人形遊びが好きだな…(ゼロを見て)絵本遊びもか…」
エース 「大切な仲間だから」
キング 「だな」
ゼロ 「あのさ…」
キング 「さて。揃ったところで…ここからか。この塔を登って…名前を消す…
覚悟はいいか？」
ゼロ 「名前を失ったら…どうなるの？皆」
全員 「え？」

☆ ソロの声がする。

ソロ 「ゼロ！ゼロー！！」

☆ 全員で慌てふためく。

エース 「感動の再会より、目的！」
キング 「こつちだ！」
エース 「ここは任せて」
ゼロ 「エース！」
スラム 「こつち！！」

☆ ウィンクするエース。

エース 「…【咳払い】…ん？」

☆ リード、キティが残る。

リード 「いく時は一緒だぜ！」
エース 「君の占いは当たらないな」
キティ 「エース様の賢者というのもどうかと」
エース 「まあ…楽しかったからいいか」
キティ 「遺言ですか？」
エース 「僕はただ…」

☆ ソロが来る。

エース 「お茶をするだけさ。いつも通りにね」

† 幻Ⅸ 「おにごっこ」

ソロ 「…ゼロは？」
エース 「やあ…ソロ。ん？実はー？初めましてーかな？」
ソロ 「下らない問答はしない」
エース 「そうかそうか！でもね…意外に君が思うより…なんだ…ここの生活

ソロ 「悪くないかもよ？」
ソロ 「同族と戦う気は無かったが……」
エース 「皆：フオーメーションAって分かるかい？」
ソロ 「仕方がない……全員とま……」
エース 「がむしゃらに飛び掛かって事！」

☆ ソロにしがみつく皆。

ソロ 「なんだ！？」
エース 「行け！頼んだよ！」

☆ 皆走り出す。

ソロ 「離せ！」
リード 「このやる！このやる！」
ソロ 「お前達……何してるのか分かってるのか！？真の自由を手に入れられんだぞ！」
リード 「自由だったぞ！俺達！お前が何を考えてるか知らないけど！」
ソロ 「はあ！？」
リード 「お前の自由と俺達の自由は違う！」
ソロ 「だからなんだ……！離せ！」
リード 「はい。俺様の勝ち。大人って……ダサイな」

☆ リードが弾かれる。

ソロ 「ゼロ！」
スラム 「うううう！」

☆ 服を引っ張っている。

ソロ 「ガキが！スラム！お前が居なければ……！何故！？魔女の森を抜けた……！？」
スラム 「大好きな人の為に……」
ソロ 「あ？」
スラム 「大好きな人の為に！頑張って何が悪いのさ！一々理由なんて求めるお前が！よっぽどガキだ！あの子は見てくれたんだ！それだけだ！他に何かいるのか！？ソロ！」
ソロ 「震えながらよく言うな。じゃあ消えろ」
スラム 「ううううう……離さない」
エース 「いいよー。スラム。お行き」

☆ 逃げるスラム。お茶を飲んでいるエースとキティ。

エース 「……ん？なんだい？」
ソロ 「お前は……何してる？」
エース 「何って……お茶の時間だ。君も飲むかい？」

ソロ 「時間稼ぎか」
エース 「まあ…そうかな？」
ソロ 「ペットを使っただけいい身分だな！」
エース 「でも…本当にいいのかい？…こうして話してるのが…はああ…」

☆ 溜める。

エース 「そもそも時間稼ぎだけど？馬鹿なの？」
ソロ 「貴様あ！」
キティ 「ちなみに…この時間にも登っています」
ソロ 「占いか？」
キティ 「いいえ？時間稼ぎですけども」
エース 「うわお！」
ソロ 「あがあああ！！」
エース 「あ…あと凄く大事なこと」
ソロ 「なんだ！」
エース 「皆をペットって言った事は本当に…許せないな！！」

☆ お茶をかける。

ソロ 「あつ…！！」
エース 「君の占いにもなかったら？この行動は」
キティ 「ええ。ありません」
ソロ 「もういい！どけ！！」

☆ 【映像・影】 影を呼び出し、追いかけるソロ。

エース 「あ…頭良い奴には見えない影って奴だ」
キティ 「では賢者の貴方には見えませんね」
エース 「どうか…！！」

☆ 影に飲まれていく。場転。ゼロ達。

ゼロ 「遠い…近くに見えるのに…エース達大丈夫かな？」
クラブ 「止まるな！行け行け！！」

☆ 影が迫る。

ゼロ 「影…ソロの…」
デイル 「よし！次は私達だ」
デッキ 「行け！」
デック 「まあ…あれだよ。もし君を忘れても」
二人 「恨んだりしない」
デイル 「…って事だ！行きな！皆！」

☆ ゼロ達が居なくなる。やって来るソロ。

ソロ 「どけ！」

☆ しがみつく。

ソロ 「しがみつくしか出来ないのか…お前等は！」

ディール 「有効でしょ？だって誰も…傷つけないのがこの世界。アンタも幻の一部じゃないの」

ソロ 「どけ！離せ！！」

デック 「離さないー！！」

ディール達 「まだー！！幻の世界でいいんだ！」

ディール達 「この世界は！」

☆ 二人を振りほどく。ディール。

ソロ 「ディール。俺の手伝いをしろ」

ディール 「…そう…ね…」

☆ 手を差し伸べるディール。握手する直前。

ディール 「ところで…これも時間稼ぎってなんで分からないの？」

ソロ 「おーのーれえー！！！」

ディール 「アンタ…向こうで何学んだの？」

ソロ 「は？」

デック 「あ…」

デッキ 「答えてくれるんだ」

二人 「優しいー」

ディール 「やっぱりアンタ…こっちにいた方がいいわよ」

ソロ 「動くな！！」

ディール 「この世界は優しい人ばかりだから」

ソロ 「…優しい人？そんな者はいない！」

☆ ディール、デッキ、デックが影に飲まれる。

追いかけるソロ。ワイルドが見ている。

ワイルド 「さ。行こうか皆…ありがとう、信じてくれて…終わりにしよう。幻の世界を」

† 幻-X 「かくれんぼ」

☆ ゼロ達。キング達と逃げている。

ゼロ 「影が来る！」

クラブ 「俺の出番か」

ゼロ 「クラブ！」

クラブ 「まあ…後は頼んだわ」
ゼロ 「クラブ」
クラブ 「居なくなったら…後よろしくな」
ゼロ 「後ろだつて!!」
クラブ 「え？」

☆ 【映像・影】影が迫る。

クラブ 「ふ…任せろ」
スピード 「分かった!」
ハート 「ナイス!」
ダイヤ 「じゃ!」
ゼロ 「頑張つて!」

☆ とつとと去る皆。

クラブ 「そんな感じ?」

☆ めっちゃ怒っているソロが来る。

クラブ 「あーらま…随分とお怒りで」
ソロ 「どけ…!!」
クラブ 「それで…俺がどくと思うか?うおおお!」

☆ しがみつく。

ソロ 「ん?え?」
クラブ 「悪いけど…闘技場で戦う以外興味はないんだ。お前も戦いたくないだろ?」
ソロ 「ああああ!!もおおお!!」

☆ クラブとソロが塔の先を見る。登っている皆。あと少し。

ソロ 「待てえー!」
クラブ 「走れー!!」

☆ ゼロ達。影が来る。

スピード 「なんて数なの…!!」
ハート 「やれやれ…次は私って訳ね」
ダイヤ 「ハート!」
ハート 「頼んだ…!!頑張りな!」

☆ 走り出す。

ハート 「さ!かくれんぼの始まり…私を誰だと…!!」

ソロ 「邪魔ものは…もう取り込んだ…!!もう時間稼ぎはさせん」
ハート 「…よし…これは無理!!逃げる逃げる!!」
ソロ 「どこだあ!？」

☆ 舞台上走り回って隠れながら塔に登る。ゼロを頂上まで登らせる。
その途中。

ダイヤ 「スピード!ハート!」
スピード 「なに!？」
ダイヤ 「後はお願ひ!」
ハート 「…」
スピード 「…」

☆ いい雰囲気。に見せかけて…。

ハート・スピード 「じゃ!がんばれ!」

☆ 去って行く。

ダイヤ 「…ああ…上手く行かないね…もう!」
ソロ 「お前等は何をしている…」
ダイヤ 「さあ?でも皆気持ちは一緒だと思う」
ソロ 「では共に…」
ダイヤ 「あー。ごめん。君の意見じゃなくて…この世界は…幻のままがいい。
そもそも…住むところが違うんだから」

☆ 突撃するダイヤ。最上階までたどり着くキング、ウイドー、ゼロ。

キング 「あれだ…!あそこが入り口…!」
ハート 「はあ…疲れた…魔法を使う時間も…」
ゼロ 「ハート…」
ハート 「え?」
ゼロ 「後ろ」

☆ 【映像・影】ハートに迫る影。

ハート 「あら…早いわね」
スピード 「ここは食い止めるから早く行って」
ハート 「任せなさい」

☆ キングとウイドー、ゼロが奥に行く。

スピード 「なんでアンタと一緒になの?」
ハート 「悪い?」
スピード 「別に」
ハート 「どつちにしろ…これで最後でしょ?」

スペード 「まあ…そうね。意外と好きだったわ」
ハート 「あら？素敵な幻ね」

☆ ソロがくる。

スペード 「はあい」
ソロ 「…」
スペード 「ああ…まあ怒ってるわよね、そうよね、分かる。でも【ファンタジー】は楽しいもんよ？アンタなんか助けられるような世界じゃない！！馬鹿みたいな世界って思うでしょ？それでも…皆楽しく生きてるの…」
ソロ 「そうか…悪いな…消えろ」

☆ 最上階。去る。入れ替え。

ゼロ 「ここ…」
キング 「ソロが閉じ込められていた場所。昔、君はここにいる者に名前を付けた。これで最後だ…さあ…名前を」
ウイドー 「ええ。ですが…。出来ません…あはは」
「は？」
ウイドー 「お疲れ様でした。集まったおかげで皆…無事に飲み込まれました」
ゼロ 「どういう…」
キング 「ウイドー！どういう事だ」
ウイドー 「名前を付けてはいけない…何故ですか？私達も生きてるのに」
キング 「お前もこの世界の者だろう！？何故！？」
ゼロ 「やっぱり…そうよね…貴方はこの世界に居ない…ママ」
ウイドー 「ありがとう。ゼロ。さあ…こちらへおいで」
キング 「ゼロ？ゼロ！待て！」
ゼロ 「ごめんなさい」

☆ 微笑むゼロ。

キング 「ああ…そうか…謝るな…私は…私達はキミに感謝している。だって君は…この世界から私達を見つけてくれたんだから。いいかい？何があっても信じるんだ。いい子だ」

☆ 影に飲み込まれるキング。

† 幻―XI―「絵本」

ゼロ 「…」
ウイドー 「これが貴方が望んだ幻日…これでいい」
ソロ 「おかえり。ゼロ…分かってくれたかい？これが君の望んだ…幻の世界だ」

☆ 抱きしめるソロ。

ソロ 「皆…僕の中に居る…お母さんを越えるんだ…そして…キミの幻は現実になる」
ゼロ 「ええ、素敵…でもごめんなさい、少し気分が悪いから…。その…記憶を取り戻して…気分が悪いみたい…」
ソロ 「そうか…無理もない…落ち着いたら…君の幻を実現させよう」
ゼロ 「ありがとう」

☆ 離れるソロ。何か描いているゼロ。

ソロ 「終わりだな」
ウイドー 「ええ。これで予言通り…幻と現実が交わる…これで…」
ゼロ 「あのね。ソロ…謝りたい事が…あの…ごめんなさい」
ソロ 「謝る？何を？」
ゼロ 「私ね…小さな頃からこういう世界に憧れてた」
ウイドー 「あれ…？なんで？」
ゼロ 「子供のままで居たかった。ずっとずっと。でも…上手く行かなかった。それで逃げてた」
ソロ 「何から？」
ゼロ 「でも、そうね。私も子供だった…だから、もう…ちゃんと大人にならないと」
ソロ 「…どういう事？」
ゼロ 「こういう事！皆の！名前を消す！ねえ！ママ！！」
ウイドー 「やめて…！！」
ゼロ 「離して！！」
ソロ 「大人になる？キミは子供のままでいい！じゃないと僕らは！ゼロ！！」
ゼロ 「ママはどうなる！？」
ゼロ 「ママの世界を捻じ曲げたのは私！もういいの！」
ソロ 「そんなわがママが通じると思うか！？いいんだ！忘れよう！辛い事は全て！じゃないと…」
ゼロ 「…！！」
ゼロ 「キミも…取り込まないと」
ソロ 「ママ！もうやめて！」
ゼロ 「作ったのは…貴方よ」
ウイドー 「ママ！！！」
ゼロ 「ママ！！！」

☆ テトラとジディ達の声が聞こえる。

ゼロ 「え…」
ソロ 「あ？なんだ？」

☆ テトラとジディが居る。

ジディ 「皆！あの城に向かうのよ！」

☆ 大歓声。

ソロ 「なんだ？なにが…？こんなものは絵本に…」

☆ テトラが斧を振り上げる。沈黙。

テトラ 「進めー！」

ソロ 「くそ…なんだ！？止めろ！影共！」

☆ 【映像・影】 歓声。入り乱れる（エア）。

ソロ 「この…！」

ゼロ 「残念ね」

ソロ 「待て…ゼロ…やめてくれ…なあ！」

スート 「ニヤハハハ！」

☆ 現れて止めるスート。

ウイドー 「スート！お前…！ソロ！」

☆ スラムが現れる。

ソロ 「スラム…？」

スート 「何処に居た？は無しニヤ」

ソロ 「ぼぼ僕も…願っているんだ！」

スラム 「何を！」

ゼロ 「ゼロが！お母さんと出会える事を！」

ゼロ 「ごめんね。ソロ…もう描いちゃった…描き直しちゃった」

☆ 絵本を見せる。

ソロ 「あの世界が嫌いなんだろう？君との約束を守る為に僕たちは居たのに！」

ウイドー 「お願い、やめて」

ソロ 「君が…迎えに来てって言ったから！僕らは頑張ったの！ここまで！
なのにあんまりじゃないか！」

ウイドー 「なんで私を産んだの！？我がままな大人と変わらないじゃない！！」

ゼロ 「ごめん…必ずちゃんと描き直すから」

ソロ・ウイ 「え…」

ゼロ 「ちよつと待っててね。私大人になったから。約束…名前を消すわ」

☆ 止まる世界。全員が出てくる。

全員 「ようこそ【ファンタジー】へ。どうするのゼロ？」

ゼロ 「うーんと…お別れするね」

全員 「そう」

ゼロ 「ごめんなさい。皆の幻を壊してしまって…」

全員 「大丈夫。名前をくれてありがとう」
ゼロ 「絶対にまた…必ず名前を付けるね…ありがとう、ウイドー…ソロ…」

☆ 光が溢れる。

ゼロ 「じゃあ…またね」
クラブ 「もう来るなよ」
ハート 「え？もう完結したから、いつ来てもいいんじゃない？」
リード 「寂しくなるぜ」
スピード 「じゃ…私はまた…ギャンブルに…ひひひ！」
ダイヤ 「あー…えつと。俺達は大丈夫」
ゼロ 「うん…皆、元気で」

☆ 抱き合って別れる。

キティ 「元気で」
キング 「では…」
エース 「またね」

☆ 去って行くゼロ。

キング 「お前は どうする？」
エース 「僕は そうだな。気まぐれだから、みんなと過ごすよ」
キング 「友達と過ごすか」
エース 「そう言う事。頑張ってるね。王様」

☆ デイール達。

デック 「いいの？あねご」
デッキ 「いっちゃうよ？」
デイール 「いいのよ…分かるだろうから」
ゼロ 「分かるわよ…匂いで」
三人 「ひ！」
ゼロ 「お風呂入りなさいよ」

☆ ジディとテトラが居る。

ジディ 「帰って来たのね」
ゼロ 「ええ…約束通り」

☆ 抱き締めるジディ。

ゼロ 「私…向き合うわね。ちゃんと」
ジディ 「誰も責めはしないわ…貴方のスタートは誰かに決められる物じゃないんだから」
ゼロ 「助けてくれてありがとう」

テトラ 「もう少しで勇者だったのに…」
ゼロ 「貴方はいつも勇者よ！自信もって」
テトラ 「聞いた！？ね！」
ジデイ 「うるさいわね…」
ゼロ 「ええ」
ジデイ 「森までついていこうか？」
ゼロ 「大丈夫。私はもう…大人だから」
ジデイ 「いつでも帰って来るんだよ？」
ゼロ 「ありがとう…またね」

☆ ワイルド、スート、スラムが居る。

ゼロ 「元気？」
ワイルド 「約束の時だ」
ゼロ 「ええ。いいわ。言ったもんね【向こうの記憶をなくすって】だから…約束は守る」
ワイルド 「そうかい」
ゼロ 「あの…さ。貴方はなんで…その…助けてくれたの？」
ワイルド 「そうだねえ…なんでかな」
ゼロ 「…」
ワイルド 「少しだけ昔の話に付き合ってくれるかい？」
ゼロ 「ええ。もちろん。どうぞ」
ワイルド 「昔々…ある所に女の子が居た。その子は現実の世界が…嫌になったんだと」
ゼロ 「…」
ワイルド 「その時木に触れて世界を渡った。そこで女の子は沢山の人と出会う」
ゼロ 「ふふ…」
ワイルド 「その子の願いはこうだった」
ゼロ 「忘れてしまえばいいって？」
ワイルド 「いや…。私が…全てを捨てればいいって…何もかもをね」
ゼロ 「…え？」
ワイルド 「全てを捨てて…何者でも無いものであればいいと…願った。そうして…友達を作った…。名前も無ければ、この世界の住人でもない…」
ゼロ 「悲しい記憶ね」
ワイルド 「そうでもないさ。アンタが来てくれた…」
ゼロ 「待って…どういう事？私の話じゃないの？」
ワイルド 「もう一度願った…私は…。残念だが、お前の願いは叶わない」
ゼロ 「ちよっと待って！」
ワイルド 「ありがとう…また…」

☆ ゼロが消える。木が騒めく。

ワイルド 「ああ…分かってる。全部捨てるよ。約束通りさ…もうこの魔法の森も
スート 終わり…自由な世界に」
ワイルド 「私はズルしたんだ…。世界を渡るなんて…ダメなのに…。私は…何を

スト 「私も願ったニヤ」
ワイルド 「何を？」
スト 「あの子が自由に行き来できるように」
ワイルド 「ルールが…」
スト 「お前が作ったルールなんて知らないニヤ。これ最後に」
ワイルド 「本？スラムも…？なんで？」
スラム 「ぼ、僕も向こうに…行ったから…願いを叶えないと…帰れるように」
ワイルド 「馬鹿な事を…そうか…私は…あの子に…」

☆ 真っ白になる世界。

ゼロ 「あれ？…ここは？」

☆ ワイルドが居る。

ゼロ 「ああ…ちよつと待って聞きたい事が」
全員 「なに？」
ゼロ 「魔女…って何？」
全員 「それは…」
スラム 「自分の目で確かめればいいよ」
ゼロ 「スラム？」
スラム 「皆で…願ったんだ。だから迎えに行けた」
ゼロ 「私を？」
スト 「ニヤハハ」
全員 「楽しかったよ」

☆ 消える皆。出てくるワイルド。

ワイルド 「嫌い嫌い…！！何もかも…私を見てくれる所…どこ？ママは見てくれ
た…ママに会いたい…でも…どれだけ待っても…迎えに来てくれない
…どうすれば…私は逃げた…本の世界に…」
ゼロ 「…」
ワイルド 「いい…これで…私が幻になれば…もう二度と…」
スラム 「ほら…ママが待っている」
ゼロ 「スラム…スト…」
スラム 「ぼぼボクたちは…願いの中でも…ちよつと…ちよつとだけルールを
破った。キミが…素敵な大人になれるように…これでママに会えるよ
…バイバイ」
スト 「ニヤハハ…。ま、お幸せに」
ゼロ 「待って！」

☆ 居なくなるストとスラム。

ワイルド 「木は約束を守ってくれる。だから約束を守らないと…守らないと…」
ゼロ 「ママ」

ワイルド 「約束は守らないと…」

ゼロ 「ママ??」

ワイルド 「…ごめんなさい…ごめんなさい…ここにいるから…私は」

ゼロ 「…」

ワイルド 「幸せに…幸せに…もう帰れない…ごめんなさい…ごめんなさい…」

ゼロ 「ワイルド！」

ワイルド 「だれ？」

ゼロ 「いい!? アンタに…アンタが! 願わなくたって! 十分幸せなの! 何それ! 情けない! この絵本をつくってくれた人はね! もっと立派で! もっとかっこよくて! もっと…もっともっともっと!! 素敵な人だったわ! めそめそしないでよ! 居なくなった事はもういい! 貴方は!!!」

ワイルド 「ゼロ…」

ゼロ 「私の…わがままなママじゃん!」

ワイルド 「ああ…ああ…」

ゼロ 「私が…描き変えて見せるよ…約束したでしょ? 必ず戻って来るって! …お帰り」

ワイルド 「ただいま…ただいま…」

☆ 《暗転》 音声(冒険譚)。

冒険譚 「ご覧ください。もう十数年も行方不明になっていた…」

☆ 声が響き渡る。《明転》

ゼロ 「…」

☆ 電話が鳴る。

ゼロ 「お姉ちゃん?…ママも私も…大丈夫。すぐに会いに行くから…うん、じゃあね」

☆ 電話を切る。

ゼロ 「よし…」

☆ 冒険譚。

冒険譚 「冒険譚ゼロ。家族の再会」

冒険譚 「冒険譚ゼロ。会社を立て直す」

冒険譚 「冒険譚ゼロ。家族で幸せな日々を過ごす」

冒険譚 「冒険譚ゼロ。ゼロ…ゼロ…ゼロ…」

冒険譚 「冒険譚ゼロ。再び」

† 幻—XII 「幻」

☆ 草原にいる皆。平和に過ごしている。近づいていくゼロ。

スラム 「ワン！」

スート 「ニャー」

ゼロ 「や。約束を守りに来たわ」

☆ 穏やかな風景。

冒険譚 「冒険譚ゼロ。ゼロ。母と幻想の物語へ」

ワイルド 「皆…元気？」

ゼロ 「私はゼロ。皆に名前をつけるわ」

☆ 皆が見つめる。

ゼロ 「なによ？約束したの。文句ある？」

† 終演 †